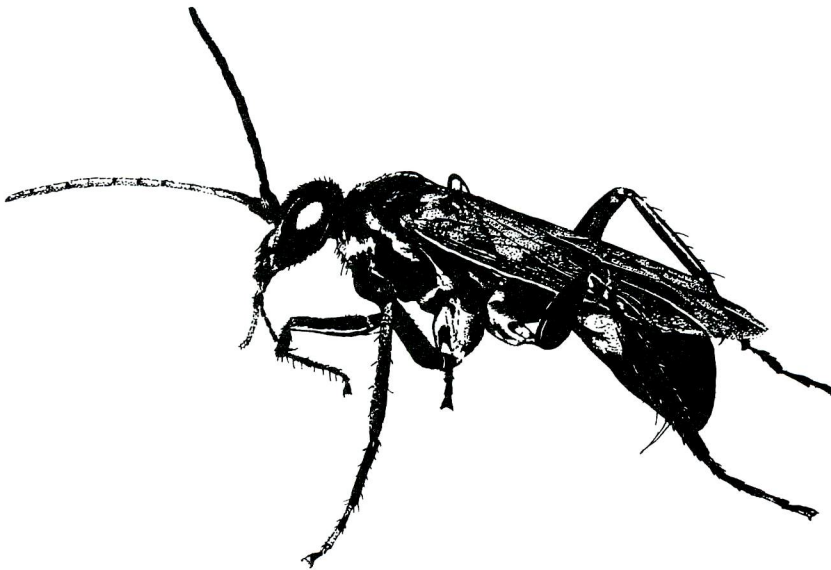


埼玉昆虫談話会

寄世蛾記

No. 90



1999.Jan.31.

「寄せ蛾記」90号 表紙の説明

◆ベッコウバチの一種

クモを狩ろうとしているベッコウバチの一種ですが、このようなベッコウバチはいません。毛の生え方も含め、すべていいかげんです。これはあくまでも絵なのです。

久しぶりに、本当に久しぶりに絵を描きました。

巢瀬 司

表紙

図 : 巢瀬 司

デザイン : 小堀 文彦

.....

武甲山の思い出

石塚正彦

.....

今の武甲山は見るも無惨、昔の面影は全くない。4分の1より上は三角形に削られ、右肩にあったコブ（飯盛山）はとつくに消え、本当に無惨な姿になってしまった。（写真①、②）

筆者の家は、西武秩父駅の西、直線で200m位の所へ位置し、朝起きると先ず武甲山の表情を見るのが日課であった。昨晚の雨は雪だっただろうか？春の芽吹きは、どの辺まで行ったのだろうか？頂上付近は紅葉が始まっただろうか？と毎朝カーテンを開けるのが楽しみであった。それが今では全くそんな気も起こらず、見るのは天目、熊倉、和名倉、の山々である。

筆者が武甲山に良く登ったのは1966年～1971年（筆者10～15才）頃で、近所の蝶仲間と合計すれば30～40回位は登っていると思う。登山前日は1.5リッターのポリタンに水を入れ、そのまま冷蔵庫の製氷室に放り込んでから寝る。そして、朝5時半に起床し、6時に出発する。ナップサック（今のデイバックと違い肩に掛かるのは単なる二本のひもで、背負っているうちに肩にめり込んでくる。その為、対策として、このひもにタオルを巻き付けておく）にむすびとカチンカチンに凍ったポリタンをタオルに巻いて入れる。格好は白のトレパン（トレーニングパンツの略で、当時の小中学生の運動用ズボン）で首にはタオル、靴は普通の運動靴である。登山ルートは当然、自宅から徒歩で行く、秩父農工（現西武秩父駅）を横に見ながら羊山公園、今はもう無くなってしまった私立秩父女子高校を通り抜け、最初のチェックポイント第一丸山（武甲山の裏参道登山ルートの約3分の1の地点にある休憩ポイント）へ向かう。途中、何本かの樹高4～5mのコナラ、クヌギの木を揺ると何十匹ものクワガタが落ちてきた記憶がある。昔は沢山いたのだろうか？

第一丸山は樹木が伐採された、かなり広い空間である。今は砕いた石灰岩をトンネルの中をベルトコンベアで付近のセメント工場まで運搬しているが、昔はこの第一丸山付近まで軌道が走っており、この軌道で石灰岩を運搬していたらしい…。この第一丸山は今でも、そのまま残っており筆者の家から見える。第一丸山での採集した蝶の記憶はウラキンシジミだけである。当時は今の長尾根丘陵（ミューズパーク）にウラキンがいることなど夢にも思っておらず、武甲山まで登らないと採集出来ない貴重な種と思っていた。

第一丸山で15分程度休んだ後、第二丸山（登山ルートの約3分の2の地点にある休憩ポイント）へと向かう。この間は殆ど樹林帯なので採集した蝶の記憶は全くなく、ひたすら第二丸山でのゼフ採りを期待しながら一生懸命登った。そして第二丸山が近くなると、みんなの足取りが急に速くなり、競って先頭を歩こうとする。

第二丸山に到着すると一斉にみんなが木を叩き出す（当時は志賀昆虫製の3本つなぎの竿である）、そのうちメスアカやアイノが飛びだし、3本つなぎのチャンバラが始まる。今と違って、子供だったせいか、本当に喧嘩腰で採集していた（今でもそうか）。この第二丸山は周りを樹木に覆われた10～15畳程度の狭い空間であった。

第二丸山を過ぎると残り3分の1で山頂である。その前に途中、半分くらい登ったところに

1999年 1 月

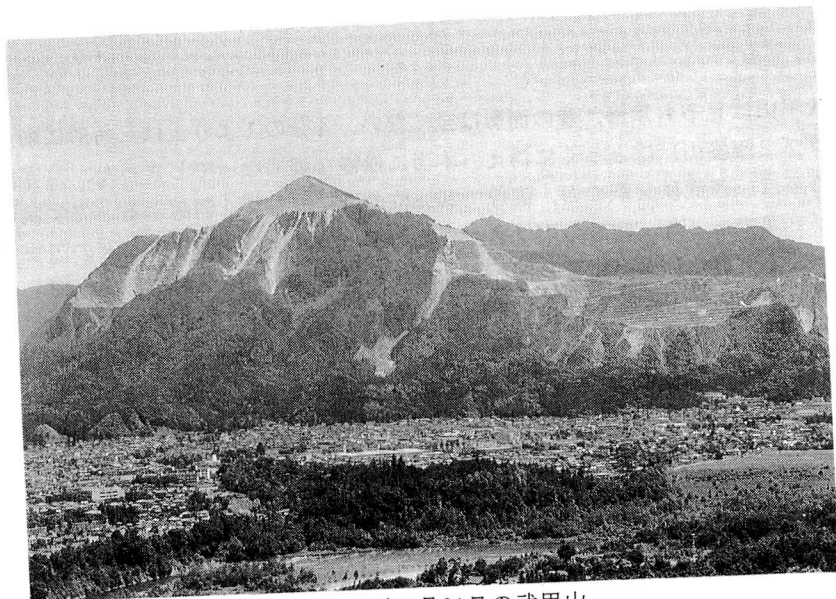


写真 1 1998年5月31日の武甲山

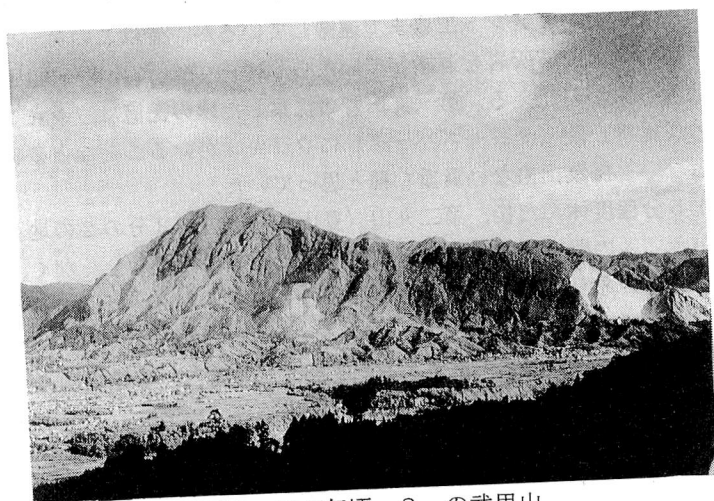


写真 2 1945年頃 ? の武甲山

上の宮という小さな、お宮がある。位置的には山頂北側の横瀬側尾根に当たるところで、ここは第二丸山ほど開けてはいないが、アイノやメスアカが採れる好ポイントであった。ここでも第二丸山同様に木を叩いて採集した記憶がある。ただ、今思うと不思議な話である。この時間帯（朝8～9時）はアイノであればテリトリーを張っている時間であり、メスアカであれば、もうすぐテリトリーを張ろうとしている時間帯である。ということは記憶の中では第二丸山、上の宮でアイノやメスアカを採ったように思えるが、（手元に残っているアイノの標本は2頭共雌、採集した記憶があるのも全てエメラルドグリーンに輝く雄だった）やはり第二丸山、上の宮で採集したのは全てメスアカだったのかもしれない。

上の宮を過ぎると山頂までは暗い樹林帯の道であり、歩いていると足下からフジミドリが飛び出すのである。それを歩きながらネットしていた（筆者も子供の頃は敏感だった）。今思えばこの上の宮から先の環境はブナ林だったのかもしれない。

フジミドリを気にしながら歩いているとあつという間に山頂に着く。山頂といっても正確な山頂ではなく、神社やお茶屋があるところに着く。（写真③、⑤）ここに着くやいなや背負ってきたナップサックを放り投げ、お茶屋の裏側へと走り出す。それはアサギマダラがいるからである。あのお茶屋の裏の林には浦山側からの気流に乗って吹き上げられたアサギマダラが木漏れ陽の中を何ともいえない幻想的な姿で飛んでいるのである。だから山頂へ着くと必ず30分間隔ぐらいで、お茶屋の裏へアサギマダラが吹き上げられていないか競って見に行くのである。当時は、なによりもこのアサギマダラが珍しく、武甲山へ登る最大の目的であった。

アサギマダラの確認が終わると今度はお茶屋の直ぐ脇の小さい丘へ登る。この丘には5～6mのミズナラ？があり、この木を叩くと、だいたいゼフ（アイノ、メスアカ？）が飛び出すのである。また、このお茶屋の上空はいつも沢山のアゲハ類が飛んでおり、なかでもモンキアゲハ（当時は非常に珍しかった）や、7月の上旬だというのにボロの春型のミヤマカラスアゲハが飛んでいたりと、やはり武甲山は標高が高いんだなと驚かされた。

お茶や付近の採集が一段落付くと、いよいよ本当の山頂へ向かう。はっきりとは覚えてないが、神社から山頂まで直線距離で70、80mはあったと思う。（写真④、⑤）林の中の道を、背丈ほどの低木に囲まれた道をかき分けながら登った記憶がある。その間、採集、目撃した蝶の記憶はない。

山頂に着くとまずは吹き上げられたフジミドリがいないか、8月に入っていればミヤマカラスジミがいないか、周りの低木を見渡す。この山頂（三角点）付近の採集が一段落付くと今度は山頂の北側尾根を少し下る。ここにもミズナラ？の木が何本もあり、叩くとゼフ（アイノ、メスアカ？）が飛び出すのである。

これで、山頂での採集は一周したことになり、やっとお昼にありつけるのである。武甲山に登ると、だいたい、このお茶屋と山頂の間を2～3回往復するのである。

下山ルートはいつも浦山口側へのルートを取る。先ずはお茶屋の裏から尾根道を飯盛山まで下る。この間は石灰岩の露出した岩場が続く、この岩場のところで、ふわり、ふわりと滑空しているホシミスジやウラジヤノメを採集した記憶がある。また、飯盛山には当時キベリタテハがいるという噂が流れていた。が仲間内では採集したものはいなかった。しかし最近になって筆者は橋立鍾乳洞のところで越冬個体のキベリタテハを目撃しているので、この噂もまんざら嘘ではなかったのかもしれない。

ルートは飯盛山を前に尾根道から橋立川に向かう谷道となる。ここを下り橋立川に当たると



写真3 お茶屋さんの前「筆者：左」(1975年 8 月)

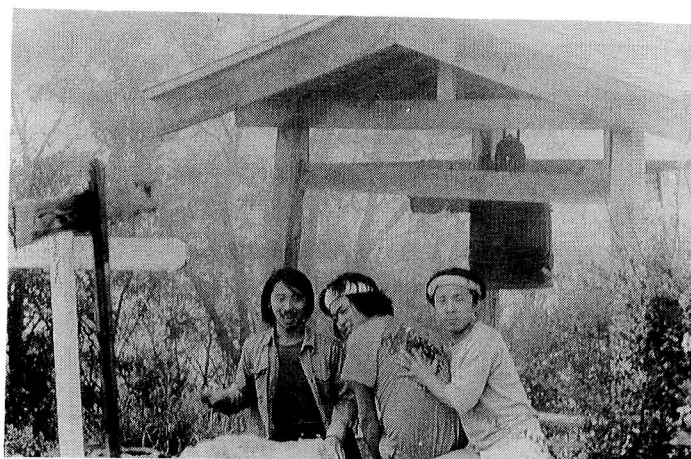


写真4 山頂「筆者：右」(1974年頃 ?)



写真5 山頂から神社付近を望む（1975年8月）

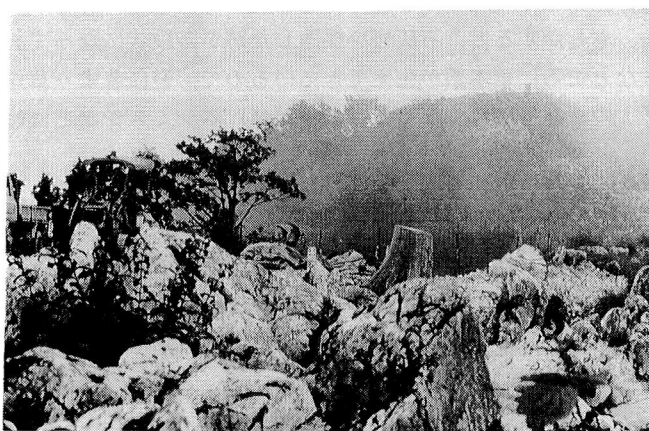


写真6 神社跡付近から山頂を望む（1978年7月26日）
武甲山山頂が削られる前の最後の姿
（写真の左側にブルドーザーとダンプカーが見える）

川沿いに進み、橋立鍾乳洞を右手に見ながら秩父鉄道の浦山口駅を目指す。そして浦山口駅からお花畑駅まで電車に乗り帰宅する。

これが当時の武甲登山メインルートであった。その他にも山頂から生川に降りる表参道もあるが、こちらは杉林が多く蝶影が薄いのでほとんど利用しなかった。また、飯盛山から橋立側ではなく、秩父側に下るルートもあったような気がするが利用したことはなかった。

以上、少年時代の武甲山への蝶の採集記を書いてみた。なにぶんにも、30年も前のことなので、かなり記憶も薄れ、実際と違っているところも多々あるかと思われますが、その点はお許し願いたい。

最後になるが当時の蝶たちに会うため1995年、1996年と武甲山を訪れてみたが、キアゲハ、ミヤマカラスアゲハ以外は誰にも会えなかった。しかし、越冬卵調査においては何とミヤマカラスシジミが私を出迎えてくれたのである。細々と生き延びていたのだ。これからずっと生き延びていてくれるのだろうか？非常に心配である。、これも時間の問題かもしれない。何とか食い止められないだろうか？

P. S.

その後1998年、千葉県のある蝶友に「昔は武甲山にウラジャノメが居たけれど今はもう山を崩されてしまい多分居ないと思うよ。でも、もしかしたら南側の尾根を探せば居るかもしれない。」と話したところ、その蝶友は間違って武甲山に行ってしまったのである。それも福島県のあるところでは6月20頃から発生するというので何と6月29日と言う早い時期に行ってしまったのだ。それが幸いして10頭ものウラジャノメを採ってきたのだ。筆者が昔、武甲山でウラジャノメを見たのは7/15～25頃、又2年前に調査に行った時も、早くて居ないより、ボロでも居た方が良いという理由で7/25頃だった。何でこんな早く出るのだろうか？。そんな訳で居ても立っても居られず7/8会社を休んで武甲山へ向かった。すると本当にウラジャノメが筆者を迎えてくれた。30年振りの再会である。10頭以上目撃し、1♂2♀採集した。2♀は採卵用に生け捕りいした。(ビニール袋に入れ、持ち帰り、翌日30卵産み落としした。)おまけに山頂では食草も見当たらないのにホシミスジまでが私を迎えてくれた。何と嬉しい話ではないか、もしかすると、石灰岩を採取した跡が階段状になっており、上から見ると、その階段状の平らなところに草本類が生えてきているので、逆に昔より草原的な環境が多くなり(ミズナラ、ブナの樹林帯は無くなってしまったが)ホシミスジなどには好環境になっているのかもしれない。

しかし、喜んでばかりはいられなかった。なな何と山頂から子持山に向かって走る尾根沿いに生えていたクロウメモドキが殆ど伐採されてしまったのである。伐採は幅4～5mで子持山まで続いていた。防火帯なのだろうか？唯一埼玉県で確実に生息が確認されている武甲山からミヤマカラスシジミが姿を消してしまうのだろうか？(記録としては浦山側の長者屋敷の頭でも採集されているので、まだ生き残っているのかもしれない。)

武甲山での採集データー(現在標本が残っているもの)

★フジミドリシジミ (*Sibatanoiozephyrus fujisanus*)

埼玉県秩父市武甲山	1966年7月16日	1♂1♀	石塚 寿採集	筆者標本保管
埼玉県秩父市武甲山山頂	1977年7月18日	1♀	筆者採集保管	

★アイノミドリシジミ (*Chrozophyrus brillantinus*)

埼玉県秩父市武甲山	1967年7月16日	1♀ (AB型)	石塚 寿採集	筆者標本保管
埼玉県秩父市武甲山	1968年8月5日	1♀ (A型)	石塚 寿採集	筆者標本保管

★メスアカミドリシジミ (*Chrozophyrus smaragdinus*)

埼玉県秩父郡横瀬町武甲山	1966年7月16日	1♂	石塚 寿採集	筆者標本保管
--------------	------------	----	--------	--------

★ミヤマカラスシジミ (*Fixsenia mera*)

埼玉県秩父郡横瀬町武甲山山頂	1978年7月26日	1♂	筆者採集保管
埼玉県秩父郡横瀬町武甲山東側尾根	1995年1月14日	3卵	
埼玉県秩父郡横瀬町武甲山東側尾根	1996年3月24日	18卵	

★ウラキンシジミ (*Coreana stygana*)

埼玉県秩父郡横瀬町武甲山山頂	1977年7月18日	1♀	筆者採集保管
----------------	------------	----	--------

★ウラジャノメ (*Lopinga achine*)

埼玉県秩父郡横瀬町武甲山山頂	1998年7月8日	1♂2♀♀	筆者採集保管
----------------	-----------	-------	--------

★ホシミスジ (*Neptis pryri*)

埼玉県秩父郡横瀬町武甲山山頂	1998年7月8日	1♂1♀	筆者採集保管
----------------	-----------	------	--------

★エゾスジグロシロチョウ (*Pieris napi*)

埼玉県秩父郡横瀬町武甲山山頂	1998年7月8日	2♂	筆者採集保管
----------------	-----------	----	--------

★ミスジチョウ (*Neptis philyra*)

埼玉県秩父郡横瀬町武甲山東側尾根	1998年7月8日	1♀	筆者採集保管
------------------	-----------	----	--------



写真7 ヒメキマダラヒカゲ (山頂にて: 1977年 7 月18日)



写真8 ミヤマカラスジミ (山頂にて: 1978年 7 月26日)

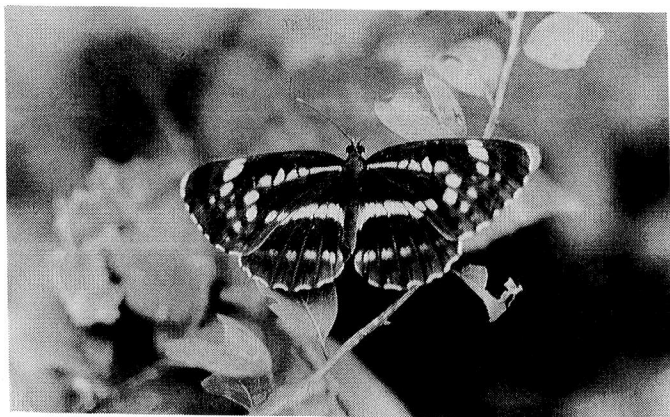


写真9 ホシミズジ (山頂にて: 1977年 7 月18日)

(いしづか まさひこ 〒368-0035 秩父市上町1-1-17)

.....

秩父市街地付近の蝶相

石塚正彦

.....

筆者の勤務する会社は秩父市の北に位置し、丁度、秩父ミュージックパークのある長尾根丘陵の北端にあたる標高250mのところにあります。非常に展望がよく東には養山、丸山、南には武甲山、天目山、西には熊倉、和名倉、三宝、甲武信、木賊、破風、両神、北には双子山、城峰、八風山の山々が見渡せる360度の素晴らしい展望を有する地にあります。又この展望を利用し、昼休みになれば双眼鏡で皆野、吉田町方面を覗いてはクロツのいそうな岩場はないか……、ハヤシ、ウスイロのいそうなカシワ林はないか……、丸山、浦山、熊倉方面を覗いては何処か行ったことのない尾根、谷はないか……と新産地発見に役立てております。

会社付近の環境としてはミュージックパークのある長尾根と殆ど同じ環境にありますが、弊社を含めた小さな工業団地になっていることと養蚕用の桑畑、諸々の個人の小さな野菜畑、などが多少広がっている他はコナラ、クヌギを交えた雑木林で構成されております。

以上のような恵まれた環境で働いているため、昼休みになると、天気の良い日はどうしても外に出たくなります。特に早春など実際に外に出てみると昨日はルリシジミの初見日、今日はミヤマセセリの初見日、明日は一体何が見られるかなあ……と、楽しみになります。そんな理由で毎昼休み外に出るようになり、どうせ毎日出るなら、この付近には、どれくらいの種類の蝶がいて、毎日何頭ぐらいの蝶が見られ、それが季節の移り変わりによって、どのように推移するのだろうかと思い調査(楽しい散歩)をスタートしました。

☆観察条件

- 観察期間・・・1992年5月19日～11月14日、1993年3月22日～9月28日
- 観察者・・・石塚正彦
- 時間帯・・・12:15～12:35の20分間
- 確認方法・・・飛翔しているもの、止まっているもの、全て筆者の目視確認。ただし筆者の力量不足による飛翔しているルリシジミ、ヤマトシジミ、ツバメシジミ、ヒョウモン類など同定出来ないもの、妖しいものはカウントしなかった。
- 観察ルート・・・150mくらいの距離を毎日一往復した……観察地概略図参照。
- 観察環境・・・写真①②③参照

☆予想外だった蝶

確認できた蝶

- クジャクチョウ・・・晩秋になり里下りした個体は数回目撃しているが、発生初期の個体は平地では初めて。付近では横瀬町の丸山中腹で目撃している。
- ウラギンヒョウモン・・・30年位前には秩父市内の押堀川付近にも居たという話は聞いたことがある。最近では養山にいるという話を聞いて、何回かトライしたことはあったが確認できなかった。その他、吉田町番戸で1992年6月に確認している。何れも採集していないため標本はない。採集すれば良かった。悔やまれる。
- スジボソヤマキチョウ大滝方面まで足を延ばさないと見られない種と思っていた。越冬個体は30年位前、秩父市上町の押堀川で採集した記憶がある。その後会員の加藤輝年氏より養山には沢山いたと聞いてがっかりした。確

かに養山にはクロウメモドキが点在している（ミヤマカラスジミがいまいかと調査したが発見できなかった）

確認できなかった蝶

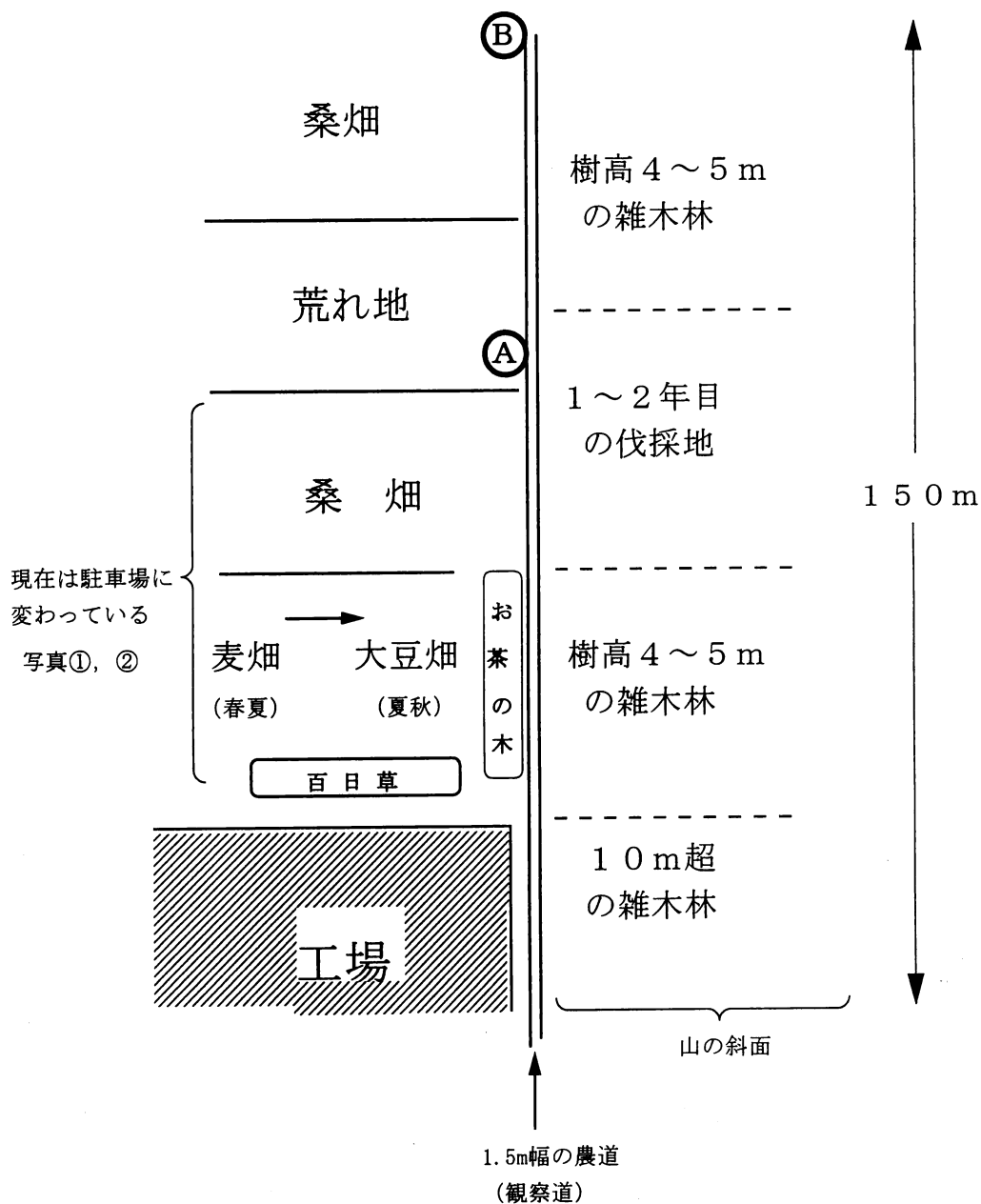
- コツバメ・・・・・・・・付近にはアセビはないがヤマツツジがあるので確認出来ると思っていた。（それらしきものは何回か目撃しているが、飛翔中のため同定できなかった）秩父の山麓ではまだ何処でも確認できる。
- ホソバセセリ・・・・・・・・付近では秩父ミュージックパークで見られると聞いているが筆者は確認していない。秩父の蝶友に聞くと「何処でも見られるよ」と答えるが筆者がホソバセセリに余程縁がないのか、本当にいないのか、はつきりしない。しかし、自慢ではないが、ここ四、五年間は筆者が秩父付近のフィールドに最も出動していると思うので、その筆者が目撃してないので減少傾向にあるのではないかと考える。
- シータテハ・・・・・・・・筆者は予測してなかったが、最近（1995年頃）の情報としてミュージックパークで多数目撃されているとのこと。

☆その他

- ◆イチモンジセセリは工場北側（図参照）に百日草が6～7mに渡り植えてあり、そこで殆ど確認している。花と食樹は蝶を呼ぶ、第一条件。この百日草がなければ、これ程の数は確認できなかったと思われる。
- ◆サトキマダラヒカゲは10m超の雑木林（図参照）に樹液の出るコナラがあり、半分以上は、そのコナラで確認している。又、スミナガシの確認も、その樹液である。
- ◆モンキアゲハは1993年には8月に1回のみの確認であったが、1992年は6月に4回確認しており、そのうちの2回は、驚くことに、ほぼ同時刻に同一場所で2日続けて確認している。この付近でのモンキアゲハの個体数は多くないので、全く同じ個体を目撃しているのかもしれない。外的要因がなければ、かなりの精度（時間）で蝶道を形成しているのかもしれない。全く不思議なことである。時間があれば調査してみたいのだが。
- ◆キチョウについて、1992年は7/30日が初見日でそれ以後11月中旬まで、ほぼ毎回確認している。1993年は、4/19が初見日で春から確認できたが夏以降の個体数の増加は1992年ほど多くはなかった。やはり年による変動があるのと、個体数の増加は8月に入ってからと言える。
- ◆ウラナミシジミについても年による変動があるようで1992年は9/2を初見日として、その後多数確認しているが、1993年は全く確認できなかった。
- ◆テングチョウについては越冬個体が4月の初旬より5月の中、下旬頃まで見られ、1化は6月の下旬頃、数日見られるだけで個体数も少ない。そして2化と思われる個体は10月の中旬～11月中旬に見られた。
- ◆ヒョウモン類については、春はクモガタヒョウモンが5月の上旬から6月の上旬頃まで見られ、メスグロヒョウモンは、多少遅れ1992年が7月を中心に見られたが、1993年は6月を中心に見られた。

ミドリヒョウモンは、初夏、秋通しても個体数が少なく、初夏については1992年7/3一例だけである。秋は9月に入ると再び顔出し、10月中旬頃まで見られる。クモガタヒョウモンについては春の方が圧倒的に個体数が多く、逆にミドリヒョウモンについては秋の方が個体数が多いようだ。メスグロヒョウモンは夏眠が薄いようで1992年は冷夏の影響もあったのか8月だけが見られなかっただけである。特筆すべき事としてクモガタヒョウモンが1992年

観察地概略図



寄世蛾記 (90号)

[illegible]

1999年1月

寄世蛾記 (91号)

[illegible]

寄せ蛾記 (90号)

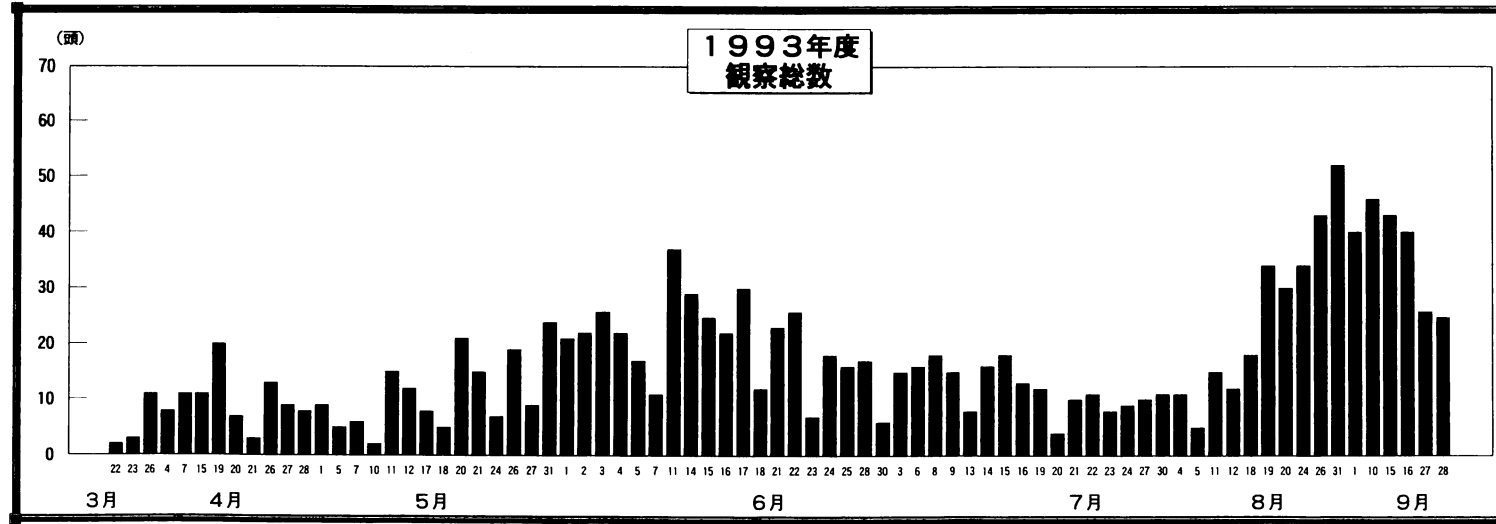
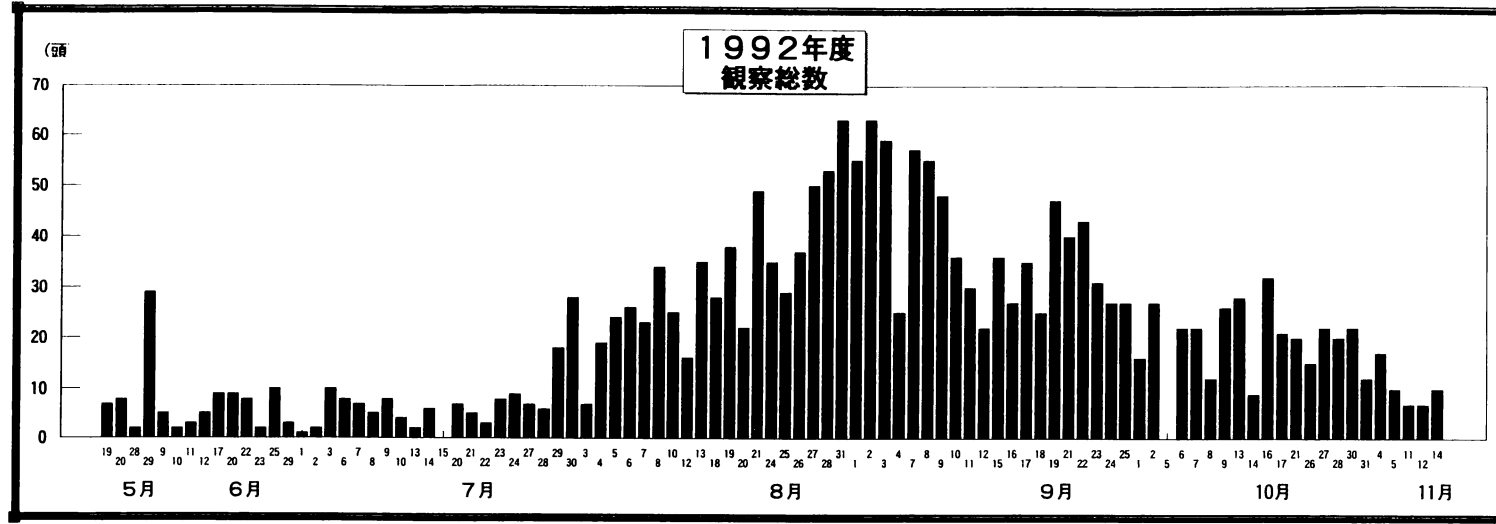
[illegible]

寄せ蛾記 (91号)

- 2661 -

1999年1月

寄せ織記 (90号)



の真夏8/8にお茶の木より飛び出した事があげられる。これも冷夏の影響で夏眠が浅かったのか・・・？又、夏眠の環境としては、この様な場所が選択されているのか・・・？

◆ジャコウアゲハについては調査中には確認できなかったが1991年夏に会社建物内の窓にトラップされているのを確認しているので付近に生息していると判断する。

◆ウラキシジミについても調査中には確認できませんでしたが1991年2月に越冬卵で、1994年6月に会社の窓のクモの巣に掛かっているの採集、1995年5月に調査地の食樹より終令幼虫を確認している。

◆ジャノメチョウについても調査中には確認できませんでしたが1997年7月26日に確認している。

以上2年間にわたり会社付近を調査してみた。予想より多くの蝶を確認できたと思う。これらのデータからは、まだ沢山のことが読みとれると思うが、筆者に分析能力がないこと、又、まとめ上げる能力もなかったため、このまま行くと何時になっても発表出来なくなってしまふと思い、中途半端ではあるが思い切って発表に踏み切った。（今でさえ発表まで5年も掛かってしまった）最後に今回の調査でウラギンヒョウモンが平地で発見できたように、秩父地方にはまだまだ多くの眠っている蝶の生息地があると思われる。今後も引き続き秩父地方の詳細な蝶の分布調査することを筆者の目的にしたい。



写真1 観察地（1998年5月撮影）奥に見える山が美の山

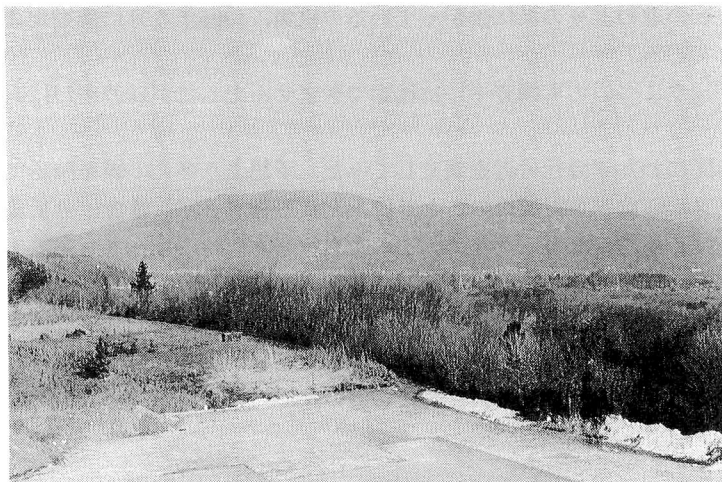


写真2 観察地 (1998年 3 月撮影)

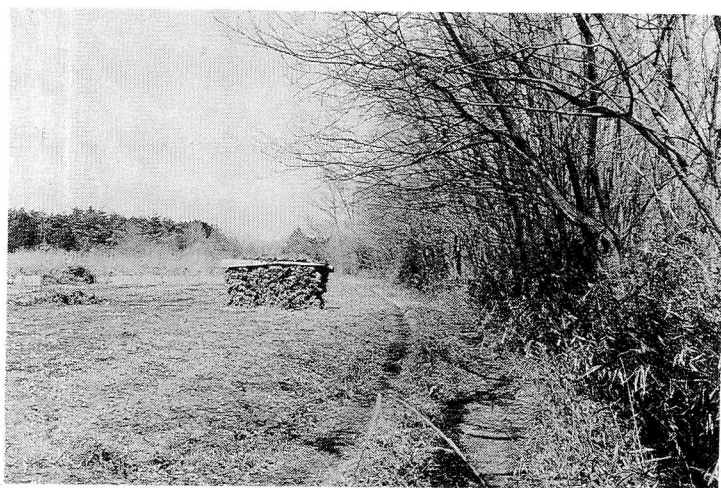


写真3 観察地：A地点よりB地点方向を望む

(いしづか まさひこ 〒368-0035 秩父市上町1-1-17)

.....

カラスシジミの新産地

石塚正彦

.....

筆者はカラスシジミ (*Fixsenia w-album*) の越冬卵及び幼虫調査において新産地を3カ所確認したので報告する。

①埼玉県秩父市田村井森～ミュージックパーク間 (1998年1月2日：5卵 ハルニレ)

今回確認できた場所は今まで秩父地方で多く見られた環境と同様で小さな沢沿いにハルニレの10m超の大木が2本、5～6mの木が2本、2m位の木が数本生えている。産卵されていた枝は10m超の大木で西側に張り出した最下枝の15mmφの太枝樹皮の下側割れ目に3卵、3～4mmの小枝分岐部より2卵採卵した。

ここのハルニレは筆者の自宅より車で15分程度のところで、3年前よりハルニレは確認していたが近いということもあり後回しにされていたり、シーズン中は雑草がひどく、マムシもいそうな感じで、なかなかアプローチ出来なかったり、又、今までの経験より本種の越冬卵調査は難しいと思っていたので、あきらめかけていた場所であった。しかし、97年の年末に某社オリジナルの9mカーボンの竿を改造し、9mの高枝切りバサミを作製したので、カラスシジミも、もっと高い枝を切れば卵が付いているのではないかと、確認したところ見事的中したのである。

又、ここの生息地はミュージックパークに程近く、ミュージックパークでは5、6年前？にハルニレを植林しているので（正確な数は分からないが筆者は5、6本確認している）もしかすると数年後にはここの生息地より飛来した個体が、あるいは付近に他の発生地が隠れていて、そこから飛来した個体により、発生を始めるかもしれない。何とも夢のある話ではないか、既に吉田町番戸では道路拡張のため、10m弱のハルニレが3本も切られてしまったのである。そんなおり、理由は分からないがハルニレが植えられたのは嬉しい話である。

②埼玉県児玉郡児玉町太駄平沢 (1998年1月11日：3卵 ハルニレ)

ここの生息地も秩父地方で多く見られる環境で沢に面した斜面に10m超の大木が2本、5～6mの木が2本生えている。3年前にハルニレを確認し、成虫も何度か目撃はしていたが採集までは至らなかった。ゼフィルスなどでもよくあるパターンで長竿で、叩くと飛び出すが、飛び出した後、より高いところに移り採集出来なくなってしまうパターンである。

採卵した木は樹高15m位の大木の9m付近の道路に面した空間に張り出した枝である。産卵位置は前記した場所と全く違い、全て休眠芽の基部であった。これには驚いた。まさか休眠芽の基部に付いているとは思わず、採卵した時点では疑っていた。しかし帰宅し保育社の生態図鑑を見たら、希に休眠芽の基部に産卵すると書かれており、安心した。

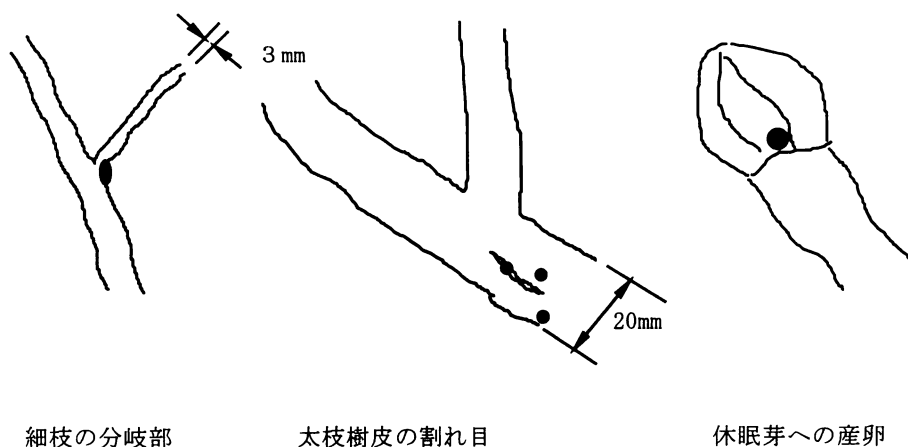


図1 今回の調査報告で観察したカラスジミの卵の産卵位置「模式図」

②埼玉県秩父郡小鹿野町三山三ヶ原(1998年5月3日: 1幼(終令) ハルニレ)

この産地は寄せ蛾記78号で食樹のハルニレのみの確認を報告した場所である。ここのハルニレは樹高7~8mのものが一本あるだけなので発生は難しいと考えていた場所であったが、幼虫、成虫の時期、付近を通りかかった際はいつも覗いていた。今回も桃木平のカラスジミの幼虫を採集(桃木平では、幼虫採集には成功しているが、その幼虫が病気で死んでしまった為、標本が一頭もない)に行った帰り、立ち寄り、ハルニレの木の下より、覗いていたところ、葉の裏側に幼虫らしきものの影が見えたので、高枝切り鋏で落としたりしたところ、カラスジミの終令幼虫であった。しかし、この幼虫も採集した時点より茶色味掛っていたので、おかしいなあとと思いながら飼育していたが、やはり蛹化せず、病死してしまった。

今までにハルニレのみを確認しているところは(カラスジミは確認してない)、長瀬、二本木峠、三沢とあるが、今回の経験より、ハルニレが一本でもあれば(付近に隠れたハルニレはあると思うが)カラスジミのいる可能性は非常に高いと思われる。

最後に、秩父市田村にハルニレがあるとの情報を提供して頂いた、本会員の笠原隆二氏に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

(いしづか まさひこ 〒368-0035 秩父市上町1-1-17)

.....

カラスシジミの蛹化場所

石塚正彦

.....

カラスシジミ（*Fixsenia w-album*）の蛹化場所については寄せ蛾記69号で一度報告しているが、その後、新たに2ヶ所で確認できたので報告する。

①児玉郡児玉町太駄平沢 1998年5月10日 2蛹採集

写真のようにハルニレの脇を道路が走っており、その側溝、側面の蓋の有るところに2蛹が並んで蛹化していた。この発見に至っては、吉田町でも側溝ではないが水の流れるコンクリートのトンネル内で確認しているので、もしかしたら、この側溝でも蛹化しているのではと、覗いたところ見事的中した。

②秩父郡大滝村中津川ふれあいの森 1998年5月23日 1蛹採集

何の本に書いてあったか忘れたが、ある本にカラスシジミの蛹化場所として、「ハルニレの下枝が沢を跨ぐように横に伸びた、その下にある拳大の石ころの下に蛹化していた」と書いてあったので、多少環境は違うが、ここ中津川は河原にハルニレが生えているので、3～4本のハルニレの木の根本付近（半径50cm）を調査したところ、根本より30cm位の所の拳大の石より1蛹採集した。

ハルニレの幹

→
ハルニレの横枝



ここに蛹化していた

写真1 埼玉県児玉郡児玉町太駄平沢で発見したカラスシジミの蛹化場所（写真内の白の→）

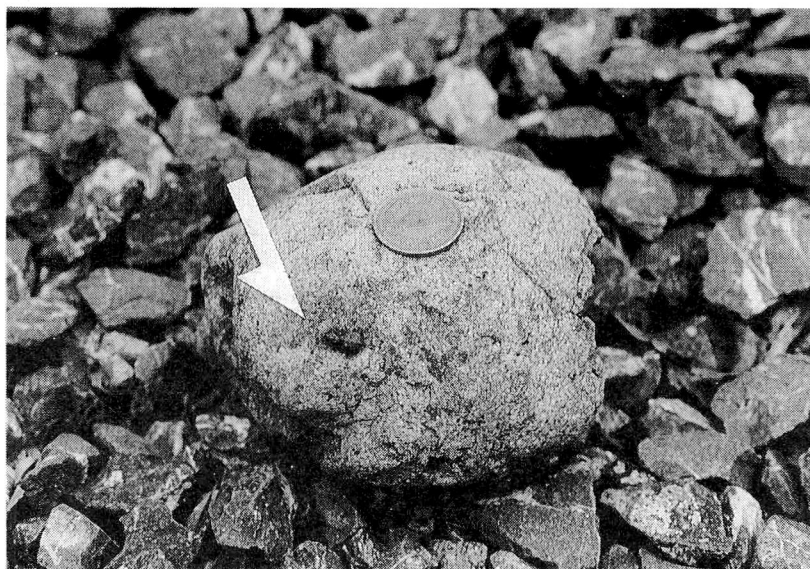


写真 2 埼玉県秩父郡大滝村中津川のふれあいの森で発見したカラスジミの蛹化場所
(写真内の白の→)

(いしづか まさひこ 〒368-0035 秩父市上町1-1-17)

.....

小鹿野町における蝶の採集記録

石塚正彦
.....

筆者は小鹿野町でエルタテハ、ウスイロオナガシジミ、ウラミスジシジミを採集、採卵しているのを報告する。

●ウスイロオナガシジミ (*Antigius butleri*)

小鹿野町広河原沢志賀坂峠～八丁隧道間標高900m付近(1997年7月5日 1♀筆者採集保管)

当日は早朝より二子山方面へアイノミドリを探索に行き、時間が余った為、八丁隧道、小倉沢、中津川経由で何か採集しながら帰ろうと思い、その途中(志賀坂峠～八丁隧道間)ゼフでも飛び出さないかと道端のミズナラを叩いたところ、本種がヒラ、ヒラ、ヒラと落ちてきた。ミズイロオナガと思いネットの中を覗いてビックリ、ウスイロの雌であった。ここでスケベ根性が出て、もし早なら生け捕りして帰ろうとネットの中に生け捕り用の容器を入れ、その容器に追い込もうとしたところ、本種が容器の脇を通って逃出しそうになったので、これはまずい埼玉では珍品のウスイロに逃げられたのでは、ましてやかシワでなく、ミズナラ食いのど珍品を逃しては、と急いでネットを押さえたところ、何と運悪く、押さえた手の下にウスイロが来てしまい、片側の前後翅を付け根近くから折ってしまった。ガックリ。しかし産卵には支障ないと思い、そのまま持ち帰った……。結局未交尾だったのか、筆者の技術がなかったのか、全く産卵せず、更にボロボロにになってしまった。

●エルタテハ (*Nymphalis vaualbum*)

小鹿野町広河原沢志賀坂峠～八丁隧道間標高900m付近(1997年7月19日 1♂筆者採集保管)

この日は中津川の大黒奥の広河原にヒメシジミを探しに行く予定であったが、大滝村中双里手前の土砂崩れで、道路が通行止めになってしまった為、遠回りではあるが志賀坂峠、八丁隧道経由で中津に入ることにした。その帰り道、2週間前に、この場所でウスイロを採集しているので柳の下に2匹目のドジョウはいないかと立ち寄り探索していたところ、ミズナラの葉に止まっている本種を発見、採集した。よく見るとそのミズナラより樹液が出ており、ヒカゲ類が止まっていたので本種もその樹液に来ていたのかもしれない。本種については、八丁峠(両神山)を挟んだ反対側の広河原、中津川の谷には生息しているが、この小鹿野町側の谷では初めてと思われる。

●ウラミスジシジミ (*Wagimo signatus*)

小鹿野町二子山東岳東側山麓標高1000m付近(1998年1月4日 3卵:コナラ)

採卵地点は高標高までコナラが分布しており、本種がいる可能性があるという調査していた場所である。地理的には以前報告した志賀坂峠～八丁隧道間の確認地点より直線距離で北東へ2～3km離れた所で現在志賀坂峠、二子山間の林道工事をしている場所である。採卵した木は道端の樹高10m超のコナラの大木で林道工事のため道側に面した枝は伐採されており、その高さ9m付近の中央部幹から斜め上に1～2m伸びた枝のひとつの休眠芽より3卵獲られた。

(いしづか まさひこ 〒368-0035 秩父市上町1-1-17)

.....

長瀬でウスイロコノマ

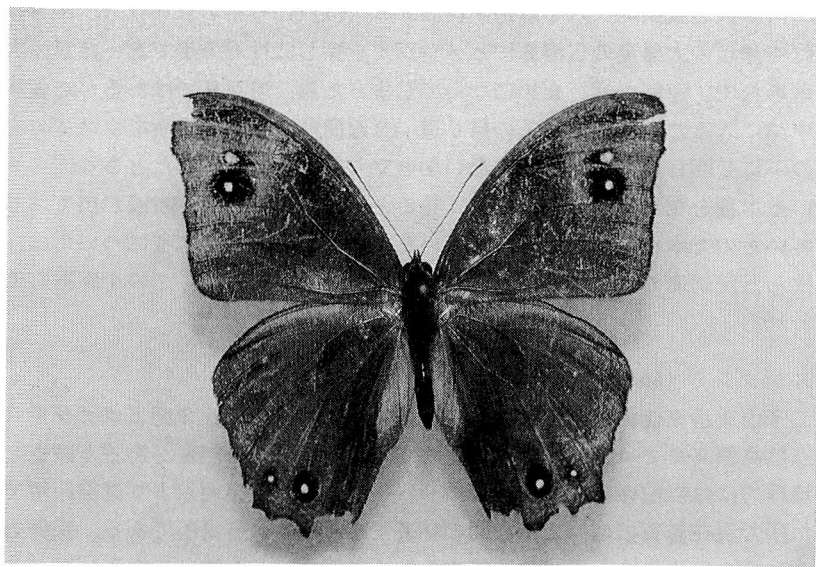
石塚正彦

.....

筆者は長瀬で採集されたウスイロコノマ (*Melanitis leda*) を保管しているので報告する。採集者は筆者の蝶友(大先輩であり、筆者が勝手に友人と思っている。)山田邦雄氏(東京都東長崎在住)が採集したもので、その状況について山田氏から頂いた手紙をそのまま引用させていただくと、「1997年9月6日朝7時前に長瀬町の白鳥荘駐車場に車を入れ、ホシミスジが飛ぶ時間には早いので、駐車場前にあるクヌギ林でキジ打ちでもと思い、踏み込んだところ、サトキマダラ、ヒメジャノメ等と共に飛び出した。クロヒカゲかなあとも思いましたが、万が一と思い4~5m先の緑の草に止まったのを見たら蛇の目紋があり思わずにっこり、あせりました。発生個体か否か確認すべく周辺の雑木林林縁を歩いてみましたが他には見られませんでした。夕方の活動が主なので、夕方の確認を依頼しようと思ったのですが、あいにく天がつかず………」というような状況であつたらしい。

最後に本当に貴重な標本を譲ってくださった山田邦雄氏に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

埼玉県秩父郡長瀬町井戸上郷白鳥荘 1997年9月6日 1♂ 山田邦雄採集 筆者標本保管



1997年9月6日に埼玉県秩父郡長瀬町井戸上郷白鳥荘で採集したウスイロコノマ

(いしづか まさひこ 〒368-0035 秩父市上町1-1-17)

.....

Astenus setifer を東松山市で採集

新井 志保

.....

Astenus setifer は1924年に兵庫県神戸市で J. E. A. LEWIS によって採集された1♀により, 1930年に CAMERON によって記載された。その後, 1980年に斎藤秀生氏によって2♀♀が千葉県浦安市で, 1984年に和泉敦夫氏によって1♀が東京都太田区で(柴田, 1995), 1997年に柴田泰利氏によって1♀が東京都町田市で採集されている(柴田, 1997) のみの, 大変稀なハネカクシである。

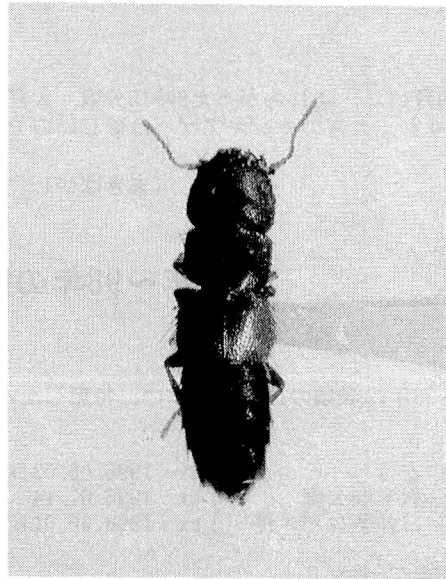
筆者は下記のように東松山市にて本種を採集しているので報告する

1♀, 5.IV.1998,

埼玉県東松山市上押垂

筆者採集, 岸本年郎 同定・保管(図)。

河川敷にある草地の石の下より, *Acanthoglossa* 属のハネカクシとともに採集された。



末筆ながら, 採集に同行, 本種についての情報を御教示頂いた, 東京農業大学大学院の岸本年郎氏, 嵐山町の豊田浩二氏の両氏に厚く御礼申し上げます。

参考文献

柴田泰利 (1995) *Astenus setifer* CAMERON という名のハネカクシ. 甲虫ニュース, (111) : 1-3

柴田泰利 (1997) *Astenus (Eurysunius) setifer* CAMERON (ハネカクシ科) を東京都町田市で採集. 甲虫ニュース, (120) : 12

(あらい しほ 〒350-1227 日高市女影447-1)

秩父郡両神村にて採集したホソヒメクロオサムシ

山崎 章

埼玉県下で採集されているホソヒメクロオサムシは、埼玉県昆虫誌Ⅲ（埼玉県の鞘翅目）によると秩父山地の標高850mから2524mの主に原生林、再生林で記録されている。大滝村以外での記録は見あたらないが、1998年6月21日に両神村白井差（標高860m）にてホソヒメクロオサムシの1♂を採集しているので報告する。採集地は沢沿いのなだらかな斜面で、クルミが他の樹種を圧倒している。もう少し時期を早めれば多数の採集が期待出来るそうなので、再度調査したいと思っています。

（やまざき あきら 〒349-0132 蓮田市貝塚71）

大宮市でモンキアゲハを目撃

牧林 功

1998年9月14日、晴れあがった9時15分頃、大宮市山においてモンキアゲハを目撃した。日高や秩父よりも、大宮のモンキアゲハは珍しいので報告しておく。

（まきばやし いさお 〒330-0834 大宮市天沼町2-864）

96年～98年の蝶類の記録

渡 邊 光 行

96年～98年の蝶類の採集と目撃の、特記したい記録があるので報告します。
（データーは年、月、日の順で示した）

テングチョウ

川口市 安行	1 ex	1996.06.03目撃(新鮮)	埼玉県植物振興センター内
浦和市 秋ヶ瀬公園	1 ex	1996.07.14	
両神村 白井差口バス停	1 ex	1998.06.01目撃	

ギンイチモンジセセリ

浦和市 秋ヶ瀬	1 ♂	1996.07.14	1 ex 1997.04.13目撃
	1 ♂	1997.04.29	1 ex 1997.04.29目撃
	1 ♂	1997.05.05	

ムラサキシジミ

浦和市 見沼たんぼ県トラスト地付近			
	2 ex	1998.07.26目撃	1 ex 1998.08.11目撃

ミズイロオナガシジミ

浦和市 秋ヶ瀬公園	1 ♀	1998.08.09
-----------	-----	------------

ミドリヒョウモン

浦和市 瀬ヶ崎	1 ♀	1998.09.20
---------	-----	------------

（わたなべ みつゆき 〒336 浦和市 瀬ヶ崎2-14-8-105）

.....

オオシロカゲロウの大発生について

牧林 功

.....

埼玉県を貫流する荒川に中流で、標題の種が大発生したので報告する。

大里郡川本町の植松橋、江南町の押切橋の水銀灯に、1998年9月13日夜、オオシロカゲロウ（アミメカゲロウ）*Ephoron shigae* が大量に誘われ乱舞した。この事実は付近の住民から読売新聞熊谷支局に通報があり、死骸も持ち込まれた。この死骸を小林紀雄氏〔（有）河川生物研究所〕がオオシロカゲロウと同定された。この種は台地・丘陵帯に地帯区分される江南台地では、過去の記録がなかったので新産地となる。

オオシロカゲロウは「さいたまレッドデータブック」では、低地帯で危急種に指定されており、その理由として現在は個体数が減少しているからだとしている。この種はしばしば大発生する種で、1985年には鴻巣で集団記録されたことがあり、水質が少し汚れると大発生すると書かれている。

幼虫は早瀬や平瀬の石の下を掘潜し、有機物残滓を餌に生活している。このため流砂の起こらない条件が必要になる。

鴻巣で1985年に集団記録されてのち、川本町や江南町で今回の大発生を見たことは、鴻巣周辺の1985年当時の荒川の水質と、川本町、江南町の現在の荒川の水質が似かよっていると解釈できる。つまり荒川の汚染が上流域へ移行している。因みに1997年のBODは正喜橋（寄居町）で1.0mg/L、久下橋（熊谷市）で1.7mg/Lであった。

大発生を見たもう一つの原因は、川床の安定にある。1998年の7～8月の荒川上流域の降雨量は、平年を大きく上回っていた。にもかかわらず、荒川中流域の流量が安定していたことは、浦山ダムの湛水がかかわっていると推察できる。

蛇足であるが、1978年は全国的に大発生した年で、仙台市、福島市（阿武隈川）、宇都宮市（鬼怒川）、長野市、伊勢市（宮川）、大洲市（肱川）、大分市（大分川）などで大発生が記録された。

また鴻巣で集団記録された1985年には、福島市で大発生があった。

本文を書くにあたり、大発生の事実の御連絡をいただき情報を集めて下さった読売新聞武田正格熊谷支局長、BODの数値の御教示をいただいた荒川上流工事事務所坪谷氏に厚く感謝する。

文 献

建設省荒川上流工事事務所（1998）荒川情報誌インフォーメーション荒川（392）：1．建設省荒川上流工事事務所。

埼玉県（1996）さいたまレッドデータブック ―埼玉県希少野生生物調査報告書動物編―．埼玉県環境部自然保護課。

塩山房男（1978）アミメカゲロウの大発生．インセクト29（2）：1－6．

（まきばやし いさお 〒330-0834 大宮市天沼町2-864）

.....

比企地方のトンボ類 (Ⅱ)

松田 幸弘

.....

前回報告(本紙No83)に続き、ヤンマ科以降についての整理記録を報告する。リスト内容はいずれも確実な目撃、採集記録であり、写真撮影及び標本として筆者が保管している。

エゾトンボ科 Corduliidae Karsch

タカネトンボ *Somatochlora uchidai* Foester

〈鳩山町〉

1♂, 97. 6. 17, 大豆戸

* 確実な記録は上記のみであるが、同属のトンボは比較的多く見かける。本種は林道の空き地上空を旋回飛翔していたところを採集したもので、極めて新鮮な個体であった。

コヤマトンボ *Macromia amphigena amphigena* Selys

〈東松山市〉

2♂ (目), 95. 5. 23, 神戸[都幾川]; 2♂ (目), 96. 5. 25, 上唐子[都幾川]; 1ex (幼), 95. 4. 1, 高坂[都幾川]

〈越生町〉

3♂, 90. 7. 24, 津久根[越辺川]; 3♂, 89. 7. 24, 越生[越辺川]

オオヤマトンボ *Epopthalmia elegans* Brauer

〈鳩山町〉

1♂ (目), 89. 8. 16, 大橋[上板谷沼]; 1ex (目), 94. 6. 17, 大豆戸; 1♂ (目), 89. 6. 12, 熊井[石場沼]; 2ex (目), 89. 8. 3, 熊井[石場沼]; 多数, 92. 8. 22, 須江[大沼]

〈川島町〉

1ex, 95. 8. 20, 出丸下郷

〈吉見町〉

多数, 97. 7. 6, 黒岩[八丁湖]

* 初夏の頃、若い個体が林道上空を飛翔していることもあり、意外な印象を受ける。また、谷津田にて黄昏飛翔するヤンマを採集したと思ったら、本種の♀であることもある。

トンボ科 Libellulidae Stephens

ハラビロトンボ *Lyriothemis pachygastra* Selys

〈鳩山町〉

多数, 89. 6. 12, 熊井[立野谷]; 1♂ (目), 89. 8. 16, 熊井[石場沼]; 1♀ (目), 89. 8. 16, 須江[赤貫沼]; 多数, 91. 6. 16, 熊井[立野谷]; 多数, 92. 6. 27, 赤沼[坊田谷]

* 休耕田の植生遷移によって、最近はめっきりその数を減じてきている。90年頃には鳩山町内各地でも多産しており、谷津に位置する耕作放棄後2～3年の水田では必ずと言っていいほど見られた。ここ数年、鳩山町では確実なデータが見当たらない。

シオヤトンボ *Orthetrum japonicum japonicum* Uhler

<鳩山町>

多数, 89. 6. 7, 熊井[立野谷]; 多数, 89. 6. 12, 熊井[石場沼]; 多数, 90. 6. 13, 熊井[石場沼]

シオカラトンボ *Orthetrum albistylum speciosum* Uhler

<鳩山町>

多数, 89. 6. 7, 熊井[立野谷]; 多数, 89. 8. 16, 熊井[石場沼]; 多数, 89. 8. 16, 須江[赤貫沼]; 多数, 90. 6. 13, 熊井[石場沼]; 3ex (目), 90. 9. 22, 熊井[石場沼]; 多数, 92. 7. 12, 須江[大沼]; 多数, 95. 7. 27, 石坂[河跡沼]; 多数, 97. 6. 1, 赤沼[坊田谷]

<川島町>

多数, 95. 8. 20, 出丸下郷

<東松山市>

多数, 95. 5. 23, 上唐子[都幾川]; 多数, 96. 5. 25, 上唐子[都幾川]

オオシカラトンボ *Orthetrum triangulare melania* Selys

<鳩山町>

1♂ (目), 92. 7. 4, 赤沼[坊田谷]; 多数, 92. 7. 12, 須江[大沼]

<東松山市>

多数, 95. 8. 15, 岩殿

ヨツボシトンボ *Libellula quadrimaculata asahinai* Schmidt

<鳩山町>

1♂, 89. 6. 7, 熊井[立野谷]; 1ex (目), 92. 7. 12, 須江[大沼]; 10ex (目), 97. 6. 1, 小用[調整池]; 3♂ (目), 98. 6. 21, 小用[調整池]

* 県内各地でもそう多くは見られる種ではない。秩父地方の池沼では、まだまだ健在のようだが、比企地方や入間地方ではむしろ稀な部類に入り、滅多に見かけない。今回の報告では、鳩山町内のゴルフ場調整地に多産していたものを確認したもので、97年の記録では目撃したものだけでも10個体を数えた。恐らく、同地では数十の個体が過密的に生息しているものと思われるが、金網張り完全護岸の調整地にはヨシやガマが繁茂し、採集もままならない状態である。なお、道路を挟んだ30mほど隣の溜池（大沼）では本種は1個体も見られず、この調整地にいか

に執着しているかが伺われる。

コフキトンボ *Deielia phaon* Selys

<鳩山町>

1♀ (目), 92. 6. 26, 須江[大沼]; 多数, 92. 7. 12, 須江[大沼]; 1♀^レ型 (目), 92. 7. 12, 須江[大沼]; 1♀^レ型 (目), 98. 6. 21, 小用[大沼]

<川島町>

5♀^レ型. ♂多数, 95. 7. 27, 山ヶ谷戸[河跡沼]

ショウジョウトンボ *Crocothemis servilia mariannae* Kiauta

<鳩山町>

1♂, 92. 6. 26, 小用[大沼]; 1ex (目), 92. 7. 4, 赤沼[菱沼]; 6ex (目), 92. 7. 12, 須江[大沼]; 多数, 95. 7. 27, 石坂[河跡沼]; 1♂, 97. 5. 31, 石坂[河跡沼]; 多数, 97. 6. 1, 小用[調整地]

ミヤマアカネ *Sympetrum pedemontanum elatum* Selys

<鳩山町>

1♂ (目), 88. 9. 30, 小用; 1♂ (目), 88. 10. 11, 小用

<都幾川村>

多数, 95. 10. 28, 本郷

ナツアカネ *Sympetrum darwinianum* Selys

<鳩山町>

1♂ (目), 88. 10. 15, 小用; 1♂ (目), 88. 9. 30, 赤沼; 多数, 90. 9. 22, 熊井[石場沼]

<玉川村>

多数, 95. 9. 9, 日影

<都幾川村>

多数, 95. 10. 28, 本郷

<東松山市>

多数, 95. 10. 28, 高坂

アキアカネ *Sympetrum frequens* Selys

<鳩山町>

1♂, 88. 10. 1, 赤沼[坊田谷]; 多数, 90. 9. 22, 熊井[石場沼]

<東松山市>

多数, 95. 10. 28, 高坂; 1♂, 95. 8. 13, 岩殿

<都幾川村>

多数, 95. 10. 28, 本郷

<玉川村>

多数, 95. 10. 28, 日影

マユタテアカネ *Sympetrum eroticum eroticum* Selys

<鳩山町>

多数, 95. 10. 28, 赤沼[坊田谷]

<都幾川村>

多数, 95. 10. 28, 本郷

<玉川村>

多数, 95. 9. 9, 田黒 (特に先黒型)

ヒメアカネ *Sympetrum parvulum* Selys

<鳩山町>

1♂ (目), 88. 10. 1, 赤沼[坊田谷]; 1ex, 89. 9. 23, 赤沼[山田谷]; この他にも若干の目撃があるがデータが不詳である.

リスアカネ *Sympetrum risi risi* Bartenef

<鳩山町>

1♂ (目), 88. 9. 30, 小用; 1♂ (目), 89. 10. 26, 赤沼

ノシメトンボ *Sympetrum infuscatum* Selys

<鳩山町>

多数, 96. 7. 3, 大豆戸

<都幾川村>

多数, 95. 10. 28, 本郷

<玉川村>

多数, 95. 9. 9, 日影

<東松山市>

多数, 95. 10. 28, 高坂

コノシメトンボ *Sympetrum baccha matutinum* Ris

<鳩山町>

1♂(目), 熊井[石場沼]; データは不詳だが, 当町では上記1個体を小さな溜池で撮影している.

ネキトンボ *Sympetrum speciosum speciosum* Oguma

<鳩山町>

1ex(目), 97. 9. 熊井[石場沼]

<玉川村>

2♂(目), 95. 9. 9, 日影

<越生町>

1♂2♀(目), 91. 8. 18, 古池; 1♂4♀(目), 91. 8. 18, 大満

オオキトンボ *Sympetrum uniforme* Selys

<鳩山町>

1♂, 89. 9. 20, 赤沼[山田谷]

*既に本紙No55:1008にて報告済みのデータであるが, 迷入種と思われる. 比企地方では川島町でも確認されている.

コシアキトンボ *Pseudothemis zonata* Brumeister

<鳩山町>

5ex(目), 89. 8. 3, 熊井[石場沼]; 3ex(目), 89. 8. 16, 大橋[上板谷沼]; 多数, 90. 6. 13, 熊井[石場沼]; 多数, 92. 6. 26, 須江[大沼]; 多数, 92. 7. 12, 須江[大沼]

<川島町>

多数, 97. 7. 6, 山ヶ谷戸[河跡沼]

<吉見町>

多数, 97. 7. 6, 黒岩[八丁湖]

<東松山市>

多数, 95. 8. 13, 岩殿

ウスバキトンボ *Pantala flavescens* Fabricius

多数, 88. 10. 2, 赤沼[山田谷]; 多数, 89. 8. 16, 熊井[石場沼]; 多数, 89. 9. 23, 熊井[石場沼]; 多数, 90. 9. 22, 熊井[石場沼]

<東松山市>

多数, 95. 7. 16, 葛袋[都幾川]

ハネビロトンボ *Tramea virginia* Rambur

<鳩山町>

1ex, 90. 9. 22, 熊井[石場沼]

*本記録は, 灌漑用溜池(石場沼)畔をウスバキトンボと共に飛翔していたものである. 恐らく他所からの迷入と考えられるが, 数日前に台風が通過したことも一つの要因であろう. あと一歩のところまで採集に失敗してしまったが, 双眼鏡で本種であることを確認した.

チョウトンボ *Rhyothemis fuliginosa* Selys

<鳩山町>

1♂, 92. 8. 22, 須江[大沼]; 7ex (目), 92. 8. 22, 須江[大沼]; 5ex (目), 92. 9. 12, 須江[大沼]

<嵐山町>

1ex (目), 93. 9. 16, 古里[柏木沼]

<川島町>

5ex, 95. 8. 20, 出丸下郷[河跡沼]; 5ex, 97. 7. 6出丸下郷[河跡沼]

*鳩山町須江(大沼)での本種は、浚渫工事のため全滅してしまった。比企地方では数少ない生息地であっただけに残念であるが、川島町(河跡沼)での生息域はまだまだ健在のようである。しかし見かけるのは数個体程度で、近年各地で減少している種でもあるようだ。

【追加種】

キイトトンボ *Ceriagrion melanurum* Selys

<鳩山町>

多数, 98. 6. 21, 小用[調整地]

*前回報告(I)では念願の1個体を確認したとしたが、98年になっておびただしい数の本種を同地で確認した。

以上、これまでのデータを整理してみると、10科59種の確認となった。第1報でも述べたが、比企地方ではまだまだトンボ相については未知な部分も多く、その種数も十分な把握とはいえないだろう。そんな経緯から、地道な調査・観察の必要性をさらに感じた次第である。

(まつだ ゆきひろ 〒350-0322 比企郡鳩山町今宿297)

.....

浦和市でアオタテハモドキを目撃

巢瀬 司

.....

12年間、毎月行っている見沼たんぼの蝶と歩行虫の調査の際、何とアオタテハモドキを目撃してしまった。

1998年12月14日13時40分、快晴、無風、気温16℃、浦和市南部領辻、1個体(恐らく雌)

12月の調査では捕虫網は必要ないため、持参していなかった。たとえ捕虫網を持っていたとしても、このアオタテハモドキは採集できなかった可能性が高い。飛翔しているアオタテハモドキは真っ黒に見えるが、一瞬翅の表の眼状紋が見えた。

近年、九州だけでなく東海地方でも本種は、局地的ではあるが、かなり発生しており、今回の目撃個体は放蝶個体とは思えない。

(すのせ つかさ 〒337-0976 浦和市寺山 806-1)

.....

97年中部イタリアで出会った蝶たち (その4)

ジャノメチョウ科・セセリチョウ科

中村 英夫

.....

筆者は1996年12月から、中部イタリア・ウンブリア州テルニ市に住むようになり、中部イタリアの蝶を採集する機会に恵まれている。1997年の1シーズンにウンブリア州および近隣の中部イタリア4州(ラツィオ、トスカーナ、マルケ、アブルッツォ、いずれも筆者自宅から2時間圏内)で採集観察し同定ができた蝶120種弱について、コメントをつけてまとめつつある。前回のタテハチョウ科、テングチョウ科につづいてジャノメチョウ科とセセリチョウ科を報告する。なお、採集・観察地の県(Provincia)名の略号については第1報を参照されたい。

◎ ジャノメチョウ科

○ セイヨウシロジャノメ *Melangeria galathea*

欧州産シロジャノメ属中もっとも普通な種で、イタリアでも全土に広く分布している。主な生息域は低山地の疎林周辺の草地であるが、平地にも見られ、時には高山草原に現れることもある。

年1回、6～7月に羽化する。シロチョウ科を思わせるような飛び方で花にもよく訪れる。

<採集例> 6ex 21-VI M. Terminillo (alt. 1300m) Terminillo Rieti, RI
 1♂ 22-VI M. Sibillini Passo di Gualdo Visso, MC

○ エスパーシロジャノメ *Melangeria russiae japygia*

ヨーロッパでは南欧に分布が限られる種で、イタリアでは半島中部以南の標高1000m前後の山地に表記の特産亜種が生息しており、上限は高山帯に及んでいる。年1回、6月下旬から8月上旬にかけて出現し、成虫は明るい草原をParnassius属のように飛び交い、好んで訪花する。集団で吸蜜している場面も目撃した。アブルッツォ州高地産の個体はしばしば暗化傾向にあるといわれる。

<採集例> 28ex 22-VI M. Sibillini (alt. 1400m) Piano Grande, PG
 ~ Passo di Gualdo Visso, MC
 3ex 29-VI Campo Imperatore (alt. 1600m) Gran Sasso d'Italia, AQ

○ イタリアシロジャノメ *Melangeria arge*

世界的にもイタリア半島南半分だけに分布が限定される特産種であり、生息地も局地的である。イタリアに分布する4種のシロジャノメの中では最も早く出現し6月中旬にはほぼ姿を消すようで、生息地が極限されていることも相俟って得難い種かもしれない。97年には、下記1♀のみを偶然の幸運で得たのみであった。テルミニッロの標高1300m付近の登山自動車道路沿いを飛んでいた個体を発見し、クロホシウスバシロかと思ってネットインしたところ本種の比較的新鮮な♀であった。さらに付近を搜したが、遠くを飛んでいたため採集できなかった未確認の1頭以外、得られたシロジャノメは、近くであれば飛翔中でも容易に区別できるセイヨウシ

ロジャノメばかりであった。

<採集例> 1♀ 14-VI M. Terminillo (alt. 1300m) Terminillo Rieti, RI

○ *Hipparchia fagi*

イタリアには広く分布する種で、平地から低山地にかけての雑木林や灌木帯に多く生息している。

次種に酷似しているが、垂直分布で重なることはほとんどないこと、一般により大型であること、成虫は好んで樹幹に静止することだけでも野外で区別可能である。年1回、7～8月に出現する。フワフワと飛ぶ割にはなかなか敏感で、樹幹に静止した個体をネットに入れるのは意外と困難であった。

<採集例> 2♂1♀ 31-VIII vic. di Rosciano di Arrone, TR

○ アルキオーネジャノメ *Hipparchia alcyone*

前種に比べて分布域は遥かに限定され、イタリア半島部では中部アペニンの標高1500m以上の岩礫地が主な生息地である。前種と異なり、傾斜した地面や崖の岩上によく静止し、コヒオドシや高地性のベニシジミ類などに混じって訪花吸蜜することも多い。♂♀とも前種より小型で、翅表の白帯がより目立つなどの外見上の差もある。年1回の発生であるが、出現期は前種より早い。

<採集例> 1♀ 10-VII M. Sibillini, Forca Canapine (alt. 1500m), PG

8 ex 26-VII M. Sibillini vic. Casali di Ussita, MC

1 ex 2-VIII M. Terminillo (alt. 1800m) Terminillo Rieti, RI

○ *Hipparchia semele cadmus*

イタリア半島とシチリア島のほぼ全域の山地に分布している。高山の草原を交えた岩礫地に数が多いが、稀に低山地の疎林を飛んでいることもあり、下記アローネでの9月の採集例がそれである。7～8月に成虫が出現するが、出現初期の♂は非常に活発・敏感で、岩上によく静止するが、採集はおろか近付くことも困難である。最盛期には訪花吸蜜する個体が多く見られ、これらは比較的容易に観察・採集できる。

<採集例> 2♂ 19-VII M. Sibillini Piano Grande (alt. 1400m), PG

3♂1♀ 26-VII M. Sibillini vic. Casali di Ussita, MC

1♂ 21-IX vic. di Rosciano Frazionedi Arrone, TR

○ *Neohipparchia statilinus*

西欧に広く分布するヒカゲチョウである。地理・個体変異の大きい種とされ、いくつかのフォームが記載されているが、中部イタリア産として、後翅裏面が一様に暗褐色になるタイプ f. m. aritima が知られている。年1回、7～9月に出現し、低山地～山地の雑木林に生息し、飛び方は日本のクロヒカゲを思わせる。地上にもよく静止する。97年には基本型のみが採集できた。

<採集例> 2♂1♀ 10-VIII i Plati di Stroncone (alt. ca. 800m), TR

2♂ 31-VIII Valnerina, Confine di Provincie TR/PG

○ ハイイロジャノメ *Chazara briseis*

お互いの触覚を擦り合わせる配偶行動で有名な西欧に広く分布する種である。イタリアでは

本土とシチリア島全域の山地に分布し、生息地は主として乾燥した石灰質の山の斜面である。中部イタリアでは成虫は8月上旬頃を中心に出現する。ガレ場斜面を活発に飛び交うが花にもよく集まり、訪花時が観察・採集のチャンスであるが非常に敏感である。

<採集例> 9♂4♀ 9-VIII Fuscello (alt. 1000m) Leonessa, RI

○ オオイチモンジヒカゲ *Brintesia circe*

本種も西欧に広く分布し、イタリアでは全域に分布する比較的普通種である。低地から低山地に多く見られるが、吹上げられたと思われる個体をしばしば高山帯で見ることがある。翅表にイチモンジ模様があるジャノメのなかでは本種の白帯がもっとも地色とのコントラストが明瞭である。年1回6月に羽化するが、生き残り個体は9月に入っても見られ、この時期のみが、発生初期にくらべて不活発な飛び方で占有行動をとっているのをオリーブ畑で観察したことがある。

<採集例> 1ex 29-VI Campo Imperatore (alt. 1600m) Gran Sasso d'Italia, AQ

○ *Satyrus ferula*

欧州ではイベリア半島を除いた南欧にだけ分布する種で、イタリアでは半島部の山岳地帯と内陸のアルプス周辺にのみ生息している。高山草原には多産し、特に傾斜地の草原を好んで飛んでいるように見える。近縁のジャノメチョウと同じように、♂♀で色調を異にし、特に♀は個体変異が大きく黄褐色部分の発達程度や地色の濃さはバラエティに富む。年1回7～8月に出現する。

<採集例> 3♂2♀ 5-VII Campo Imperatore (alt. 1600m) Gran Sasso d'Italia, AQ

1♂1♀ 19-VII M. Sibillini Piano Grande (alt. 1400m), PG

1♂1♀ 2-VIII M. Terminillo (alt. 1800m) Terminillo Rieti, RI

○ クモマベニヒカゲ *Erebia ligea*

欧州内陸部には広く分布する本種であるが、イタリア半島部では分布が極限された比較的稀な種であるといわれる。中部アペニンの山岳地帯に局地的に産するが、生息下限は半島中央部に分布するベニヒカゲ属中もっとも低いように思われる。亜高山帯林縁の高茎草原に生息し緩やかに飛翔して花をよく訪れる習性は日本産と同じであるが、日本の本州産に比べて橙色帯の発達した個体が多い。欧州でも日本におけると同じく、幼虫で2回越冬すると報告されている。

<採集例> 2♂1♀ 19-VII M. Sibillini Piano Grande (alt. 1400m), PG

3♂5♀ 2-VIII M. Terminillo (alt 1800m) Terminillo Rieti, RI

1♀ 9-VIII vic. di Campo Stella (alt. 1200m) Leonessa, RI

○ *Erebia albertanus*

欧州特産の高地性ベニヒカゲで、イタリアではアルプスとアペニンに分布しているが、アペニンでの生息域は局地的とされる。英語名“Almond-eyed Ringlet”に表される通り、眼状紋をとりまく橙色部分がアーモンド型に分断されてずらりと並ぶ特徴的斑紋は他種との際立った差異になっている。高山草原をベニヒカゲ属としては活発な動きで飛び回る。年1回6月中旬から出現する。

<採集例> 4♂ 14-VI M. Terminillo (alt. 1700m) Terminillo Rieti, RI

46ex 21-VI 同上

10♂ 2 ♀ 29-VI Campo Imperatore (alt. 1600m) Gran Sasso d'Italia, AQ
 2 ♀ 19-VII M. Sibillini Piano Grande (alt. 1400m), PG

○ *Erebia neoridas sibyllina*

南欧山岳地帯特産のベニヒカゲで、日本の本州産ベニヒカゲによく似た斑紋をしている。欧州では数あるベニヒカゲ属の中では最も遅く出現し、英名 “Autumn Ringlet” の通り、8月下旬以降に最盛期を迎える。イタリアではアルプス西南部に原名亜種が、中部アペニンの高地に表記亜種が生息している。グランサッソ国立公園の山上草原では8月下旬から夥しい個体が飛び交うのが見られる。

<採集例> 48♂ 13 ♀ 30-VIII M. Cristo (alt. 1400m) di Gran Sasso d'Italia, AQ

○ *Erebia epiphron aetheria*

欧州特産のベニヒカゲ小型種でベニヒカゲ属としては英国にも分布する数少ないもののひとつとして知られている。分布は局地的で欧州南部では高地性の種となり、イタリアではアルプスとアペニンに生息している。高地では幼虫で2冬過ごすというが、下記テルミニッロの産地では、97年の成虫出現期が非常に早かったので2回越冬している可能性があるように思える。ベニヒカゲ属としてはかなり敏速に高山草原を飛びまわり、初めて見たときは大型の黒いセセリに見えたほどだった。

<採集例> 10♂ 4 ♀ 14-VI M. Terminillo (alt. 1700m) Terminillo Rieti, RI
 7 ♂ 29-VI Campo Imperatore (alt. 1600m) Gran Sasso d'Italia, AQ
 3 ♂ 1 ♀ 20-VII M. Terminillo (alt. 1900m) Terminillo Rieti, RI

○ *Erebia cassioidesarvernensis*

英名 “Brassy Ringlet”, 即ち, 「真鍮のベニヒカゲ」と呼ばれる♂前翅表がメタリックグリーンに輝く欧州特産の高山性小型ベニヒカゲがイタリアに3種分布しているが、そのうち半島部にまで進出している唯一のものであり “Common Brassy Ringlet” の英名がある。中部アペニンでは、年1回7月中旬頃より成虫が出現し、標高1700m以上の高山帯の急斜面を飛ぶのが見られる。成虫は大型シジミチョウではないかと思うほど敏速に飛翔し、地面によく静止するが極めて敏感で採集し難い。太陽光線の下で翅を半開にしているものは強く緑色に輝いて見えるが、展翅標本の場合は、翅のメタリックグリーンを輝かせるためには、かなりの斜め角度から光線を当てる必要がある。

<採集例> 17ex 20-VII M. Terminillo (alt. 1800m) Terminillo Rieti, Rieti, RI
 9 ♂ 1 ♀ 26-VII M. Rotondo (alt. 1800m) Casali di Ussita, MC
 1 ♂ 1 ♀ 3-VIII M. Portella (alt. 2000m) Gran Sasso d'Italia, AQ

○ コヒメヒカゲ *Coenonympha pamphilus*

ヒメヒカゲ属中最普通種で低地の荒れ地、ヒース、牧草地、道路沿いなど、さまざまな開けた場所に生息しており、山地草原でも見られる。全域に分布しており、多化性で3月から11月まで成虫を見ることができる。♂は草上低くベニシジミのように活発に飛ぶ。

<採集例> 3 ♂ 18-III Nera Montoro di Narni, TR

○ ベニヒメヒカゲ *Coenonympha arcania*

前種について普通に見られるヒメヒカゲで、生息環境は明るい疎林が主である。樹林的环境に適応した種であるためか、成虫はしばしば樹木の葉上に静止したり樹冠を飛び越えたりする場面をみることがある。中部イタリアの低地～山地では年2回の発生と思われる。

<採集例> 1♂ 17-V vic. di Pietrafitta Castellina, SI
 1♂ 8-VI i Prati (alt. 1000m) di Stroncone, TR
 4ex 14-VI M. Terminillo (alt. 1400m) Terminillo Rieti, RI
 1♂ 10-VIII i Plati (alt. 1000m) di Stroncone, TR

○ ユーラシアヒメヒカゲ *Coenonympha glycerion*

欧州大陸に広く分布する本種は、イタリア半島部ではラツィオからアブルッツォ州にかけてを南限とし、以北の山地帯に生息地が限定されている。年1回の発生で6～7月に出現する。モンティ・シビリニ国立公園の高山草原をはじめとする中部アペニンには多産する。

<採集例> 2♂ 14-VI M. Terminillo (alt. 1700m) Terminillo Rieti, RI
 4♂ 1♀ 22-VI M. Sibillini (alt. 1400m) Piano Grande, PG
 1ex 29-VI Campo Imperatore (alt. 1600m) Gran Sasso d'Italia, AQ

○ *Coenonympha rhodopensis italica*

バルカン半島とイタリア半島中部特産の高山性ヒメヒカゲである。イタリアでは中部アペニンの標高1400m以上の高山帯に生息するとされるが、97年に記録できたのは下記テルミニッロでの4頭のみであった。注意して捜せば他の山にも多数の前種に混じって確実に生息しているはずであるが、前種をはじめとする似た種の個体数が圧倒的に多いので面倒臭かったというのが正直なところである。翅表の地色が黄褐色（前種は黒褐色）であること、後翅裏面の白帯や眼状紋の現れ方の相違などにより、手にとって見れば容易に他種と区別できる。

<採集例> 3♂ 1♀ 14-VI M. Terminillo (alt. 1700m) Terminillo Rieti, RI

○ *Pyronia cecilia*

Pyronia 属はイタリアから2種知られており、本種は半島全域に分布し、もう1種 *tithonus* が半島の北半分に生息している。低地の蝶とされるが、97年に観察できた場所2箇所は共に標高約1000mの放牧地であった。疎林を交えた草原や林縁の草地を緩やかに飛翔し花に集るものが多かった。

<採集例> 4♂ 4♀ 9-VIII Fuscello (alt. 1000m) Leonessa, RI

○ マキバジャノメ *Maniola jurtina*

欧州に広く分布し、イタリアでも全域の草原、放牧場などで姿を見ることができる。中部イタリアでは年1回6月から出現し生き残りの汚損個体は10月下旬まで見られた。

<採集例> 2♂ 22-V Nera Montoro Narni, TR
 1♂ 8-VI i Prati (alt. 1000m) di Stroncone, TR

○ *Pararge aegeria*

コヒメヒカゲ、次種および本種が中部イタリアで最も普通にみられるジャノメチョウの代表種である。3月上旬から11月上旬にかけて疎林や雑木林の周辺、時には住宅街の公園などにごく普通に生息している。♂はしばしば林間の空地の日光が当たっている場所で占有行動をと

るのが見られる.

<採集例> 2♂ 9-III Vigne di Narni, TR
1♀ 23-III ca. 3Km nord-est di Orte, VT

○ メゲラツマジロウラジャノメ *Lasiommata megera*

イタリア産ジャノメチョウでは最も普通に見られる種のひとつ。ローマ市内でもフォロ・ロマーノやカラカラ浴場遺跡のような観光客が行き交う場所でも小規模な草地があれば発生しているほど人為的環境にも適応している。成虫出現期は2月中旬から11月にまで及んでいる。

<採集例> 2♂ 9-III Borgaria di Narni, TR
1♂3♀ 31-III Cesi Fraz. di Terni(M. Torre Maggiore), TR

○ マエラツマジロウラジャノメ *Lasiommata maera*

前種によく似た種でイタリア全域に分布が及んでいるが、生息地はより自然環境が豊かな場所に限定される傾向がある。成虫出現期は5~6月と8~9月の2回のピークがあり前種のように、いつでも見られるものではない。♂♀とも翅表の橙褐色地色が広く発達した型 f. *adrista* が欧州分布圏内のある範囲で知られているが、97年に得た採集品にはこのタイプが多かった。

<採集例> 1♂1♀ 17-V ca.2Km ovest di Tregole Castellina in Chianti, SI
2♂ 24-V Labro (alt. ca. 630m), RI
1♂ 30-VIII Monte Cristo (alt. 1300m) di Gran Sasso d'Italia, AQ
1♂ 21-IX vic. di Rosciano di Arrone, TR

[参考記録]

○ 未同定種 *Hyponephele lycaon* / *lypina*

Hyponephele 属 2種がイタリア半島に知られ、*lycaon*が全域に、*lypina*がアペニンの高地に極めて局地的に分布するとされている。この2種は同定が難しく、成虫出現期もほぼ同じである。ここでは種を特定せず97年の全採集記録を列挙する。

<採集例> 1♂ 12-VII Campo Imperatore (alt. 1600m) Gran Sasso d'Italia, AQ
1♂ 12-VII M. Cristo (alt.1500m) Gran Sasso d'Italia, AQ
16ex 19-VII M. Sibillini Piano Grande(alt. 1400m), PG
1ex 20-VII M. Terminillo (alt.1800m) Terminillo Rieti, RI
1♀ 2-VIII 同上

◎ セセリチョウ科

○ *Carcharodus alceae*

欧州大陸の南半分に広く分布し、イタリアでは全域に生息している最も普通にみられるセセリのひとつである。3月中旬頃から夏にかけて2~3回成虫が発生する。草原や荒地に生息し、成虫は訪花するほか地面にもよく静止する。

<採集例> 1♂ 18-III Nera Montoro di Narni, TR
1♂ 6-IV Forca dell'Arrone (alt. 510M) Arrone, TR

○ *Carcharodus lavatherae*

前種より分布が極限され、イタリアでは本土のみに分布している。石灰質草原との結び付きの強い種とされるが、97年唯一の採集例もモンティ・シビリニ国立公園内のそのような環境であった。

<採集例> 1♂ 19-VII M. Sibillini M. Ventosola (alt. 1300m), PG

○ ヒメミヤマセセリ *Erynnis tages*

欧州に広く分布し、イタリアでは本土全域に生息している。低山地の林縁の草原、道路沿いの草地荒地などに多く見られる。中部イタリアの低地では年2回の発生と思われ、4～5月と夏に成虫が見られる。

<採集例> ♂ 5-IV Castel dell'Aquila Avigliano Umbro, TR

♀ 6-IV Forca dell'Arrone (alt. 510m) Arrone, TR

○ ヒメチャマダラセセリ *Pyrgus malvae malvoides*

欧州では最も普通にみられるセセリのひとつで、イタリアでも本土とシチリア島の全域に分布圏が及んでいる。アルプス～ピレネー以南は表記亜種とされるが、♂交尾器に差異があるだけで外見上は原名亜種と区別できないとされる。オーストリア西部（チロール州・フォアアールベルク州）及びイタリア南チロールの一部で両者が混飛している可能性を示す記録があり、malvaeとmalvoidesをそれぞれ独立種とする見解もある。中部イタリアの低地では年2回、4～6月と夏に成虫が現れるが、季節による斑紋の差は少い。草丈の低い草原や荒地に好んで生息しており、工場敷地や遺跡などで目にすることも稀ではない。草上低く蠅のように飛翔するのですぐに見失ってしまう。

<採集例> 3♂ 10-IV Nera Montoro di Narni, TR

6 ex 4-V Rosciano Frazione di Arrone, TR

2 ex 10-V ca. 1Km sud di Stazione di Piediluco (FS) Terni, TR

○ キオビチャマダラセセリ *Pyrgus sidea occiduus*

バルカン半島以東に主要分布圏を持つ種で、西欧では南仏プロバンス地方とイタリア半島の北西部と中央部のそれぞれ一部に飛び離れて分布しており、これらの地域産は表記亜種とされる。裏面後翅の二条の黄色帯が際立った特徴で、近似種と容易に識別できる。イタリアでは産地は局地的であり、97年に記録できたのは下記1例だけであった。その環境は、石灰質草原の放牧地である。

<採集例> 1 ex 25-V i Prati di Stroncone (alt. 1000m), TR

○ チビチャマダラセセリ *Spialia sertorius*

欧州では大陸西半分だけに分布する種で、イタリアではシチリア島を除く全域に分布圏がある。

主として山地に生息し、標高1000m前後の草原や放牧地で目にすることが多い。成虫は5月と8月を中心に年2回発生し、第2化の個体は非常に小型になるものが多い。ほとんどハエくらいの大ささしかないので、ヒメチャマダラ以上に見付けにくい蝶で、飛び立つと一瞬にして見失ってしまう。

<採集例> 1♀ 25-V i Prati Stroncone di Stroncone (alt. 1000m), TR

1♂ 9-VIII Fuscello (alt. 1000m) Leonessa, RI

2♂ 30-VIII Monte Franco (alt. 1200m) di Gran Sasso d'Italia, AQ

○ コキマダラセセリ *Ochlodes venatus*

西欧に広く分布し、イタリアでは本土とシチリア島の全域に分布圏が広がっている。日本産と異なり多化性で、中部イタリアの低地では4月下旬にすでに成虫が飛んでいる。以後夏までさらに1～2回の発生を繰り返すものと思われる。日本の本州産個体にくらべかなり小型である。

- <採集例> 1♂ 3-V vic. di Rosciano Frazione di Arrone, TR
 2♂ 4-V vic. di Leazzano Montefranco, TR
 1♀ 18-V ca. 1Km sud di Stazione di Piediluco Terni, TR

○ ギンモンアカセセリ *Hesperia comma*

前種と似た分布域を形成し、イタリアでは本土のかなりの部分とシチリア島に生息している。中部イタリアで97年に目にしたのは夏の山地草原であり、日本産アカセセリの生息地を思わせる環境であった。成虫は外見・飛び方など♂♀ともにアカセセリによく似ている。

- <採集例> 1♂ 2-VIII M. Terminillo (alt. 1400m) Terminillo Rieti, RI
 1♀ 9-VIII Fuscello (alt. 1000m) Leonessa, RI

○ チョウセンキボシセセリ *Heteropterus morpheus*

中欧以東には広く分布する本種は西欧では比較的限られた地域にしか生息していない。イタリアでは内陸部に分布域があるほか、半島部ではラツィオ州を中心に中央部に孤立した分布圏があるとされる。97年に記録できた唯一の例は、内陸部分布域およびラツィオ州分布域のいずれからも遠い、ウンブリア州北部からのものである。成虫はギンイチモンジセセリを思わせる飛び方をし、4枚の翅をびたりと閉じて葉上に静止した。

- <採集例> 1♂ 6-VII Fonte di Brecciaro Assisi, PG

[参考記録] 未同定種

*Pyrgus*属および*Thymelicus*属の未同定種をいくつか採集している。前者では、チョウセンコチャマダラセセリなどの1～2種の小型種と1～2種の大型種が含まれている可能性があり、後者では、カラフトセセリなどが含まれているはずである。それぞれ代表的記録をいくつか挙げておく。

これらの採集品の同定については機会を改めたい。

○ *Pyrgus* sps. (小型種)

- <採集例> 3 ex 24-V Valico Torre Fuscello (alt. 1000m) Leonessa, RI
 1♂ 1♀ 8-VI i Prati di Stroncone (alt. 1000m), TR
 3 ex 21-VI M. Terminillo (alt. 1700m) Terminillo Rieti, RI
 4♂ 29-VI Campo Imperatore (alt. 1600m) Gran Sasso d'Italia, AQ
 1♂ 19-VII M. Sibillini (alt. 1400m) vic. di Castelluccio, PG
 1♂ 30-VIII Monte Cristo (alt. 1300m) di Gran Sasso d'Italia, AQ

○ *Pyrgus* sps. (大型種)

- <採集例> 1♂ 24-V Valico Torre Fuscello (alt. 1000m) Leonessa, RI
 1 ex 24-V M. Terminillo (alt. 1400m) Terminillo Rieti, RI

1♂ 8-VI i Prati di Stroncone (alt. 1000m), TR

○ *Thymelicus* sps.

<採集例> 1♂ 24-V Labro (alt. 630m), RI

2♂ 1♀ 8-VI vic. di Stroncone, TR

1♂ 12-VII M. Cristo (alt. 1500m) Gran Sasso d'Italia, AQ

<参考文献>

○ Higgins & Riley (1983, rep. 1993) Butterflies of Britain & Europe 5th edition

欧州産の蝶について、周年経過、食草、生息環境、近似種との区別点、基本的な解説が、欧州大陸および北アフリカにおける分布図とともにコンパクトによくまとめられており参考になる。

○ Glaßl (1993) *Parnassius apollo*, Seine Unterarten

アポロウスバシロチョウについて278の亜種・型の解説と、ロシアなど周辺部を含む欧州大陸におけるそれら全ての分布図がついている。アポロの亜種区分の妥当性はさておくとして、これまでに欧州から記載されたほぼ全てを網羅している。但し、M. Terminilloへの分布および当該個体群の位置付けについては言及されていない。

○ Schweizerisch Bund für Naturschutz (1987) Tagfalter und Ihre Lebensräume

スイス産のほぼ全種の野外での各ステージの生態写真、生息地の写真、分布図、標高別分布域、周年経過表から構成されているが写真にデータはついていない。巻末に、データ付き標本の彩色イラストレーションが本文で解説された全種について添えられている。イタリアとの共通種が多い。

○ Reichl (1992) Verbreitungsatlas der Tierwelt Österreichs, Band 1 Tagfalter

オーストリアの蝶類分布メッシュ地図。隣接するイタリア領南チロールも全てメッシュに含まれている。巻末に標本カラー写真がついているがデータはない。本書のメッシュによるとヒメチャマダラセセリの2亜種は分布重複地があり、malvaeとmalvoidesはそれぞれ独立種扱いされている。

○ Ebert (1991) Die Schmetterlinge Baden-Württembergs, Band 1, Band 2

南西ドイツ、バーデン・プフルテンベルク州の蝶全種について、野外での各ステージの生態写真、生息地の写真、分布メッシュ図、標高別分布域、成虫出現期ヒストグラムさらに州および連邦でのレッドデータリストにおけるランクが表示されている。写真は全てデータ付き。イタリアとの共通種5種を含むヒメチャマダラセセリ以外のPyrgus属8種について、ゲニタリアを含む区別点を詳述しているが、その中でP. alveusチョウセンコチャマダラセセリを3種の独立種に分割して扱っている。

○ Weidemann (1995) Tagfalter beobachten, bestimmen

ドイツ圏をメインにしたコンパクトな生態図鑑で写真には簡単なデータがついている。イタリアとの共通種が多い。ドイツ圏での高山種、減少の著しい種や生存基盤が脆弱な種についての表示があり、イタリアでの状況と対比できる。

<種の呼称について>

○ 学名

種名および亜種名は全て上記Higgins & Riley(1983)にしたがった。属名との組合せについても、基本的に同じであるが、一部最近の例にならった場合がある。

○ 和名

すでに一般化した和名が与えられている種については、知る限りそれらを踏襲した。異なる著者による複数の和名が混在していて未だ確定していないと思われる種、まだ和名がつけられたことがないと思われる種については、未確定和名、学名、英名などをもとに可能な限り便宜的な和名を与えるようにした。

<97年に複数回訪れた代表的な採集・観察フィールドについて>

○ グランサッソ国立公園 Parco Nazionale del Gran Sasso e Monti della Laga

アブルツォ州北部、イタリア半島最高峰のコルノ山 (Corno Grande, 標高 2912m) を中心に広がる山岳公園。標高1600m以上に広がる大草原、カンポ・インペラトローレには国道が通じており、標高約2130mまで自動車で登れる。ローマからはアウトストラダA24で約1時間強、Assergi インターチェンジで降りて約40分で山上に到達可能である。道路は全て舗装されており車の往来も少なく快適な山岳ドライブが楽しめる。アポロウスバシロチョウ、ヒメウスルリシジミ、ベニヒカゲ類など高山蝶の産地である。ムラサキオオベニシジミの高山型 (ssp. *goldius*) を産する。

ベニヒカゲ類は4種記録できたが、97年に採れなかった高山性の種がさらに2～3種生息しているらしい。

○ モンティ・シビリニ国立公園 Parco Nazionale dei Monti Sibillini

標高2476mのベットーレ山(M. Vettore)を主峰とした、ウンブリア州とマルケ州にまたがる山岳公園。ローマからはテルニ経由で行く。テルニからは国道209号線“Valnerina”をネラ川に沿って溯り、VissoからCastel Santangelo経由あるいは、NorciaからCasteluccioの山上集落へ通じる道を通り、PianoGrandeに車で入るか、VissoからUssita経由でCasaliへ行き、ここから未舗装の林道を走り、モンテ・ロトンド山麓の標高約1800mの高原へ行くコースなどがある。どちらのコースも、テルニから約1時間40分程度で森林限界以上に到達できる。後者のコースでは比較的足場の良いところで多数のアポロウスバシロチョウが観察できる。シジミチョウ科の珍種が得られるほか、キイロクモマツマキチョウ、ヨーロッパシジミタテハ、チョウセンヒョウモンモドキの数が多いことはこの山城について特記すべきである。

○ モンテ・テルミニッロ Monte Terminillo

ローマから国道4号線“Via Salaria”(塩街道; 古代ローマの古い道のひとつ)を約80km、車ならば1時間弱でリエティの町に入り、ここから“Terminillo”の表示に従って標高をかせぐと30分ほどで標高約1700mの森林限界に達する。山頂(2216m)直下の標高1900mの峠を越えて、レオネッサに至る道が国道521号線と結んでおり、全区間が舗装されている。山麓から高山帯まで良いポイントが点在し、リエティ側山麓部ではイタリアシロジャノメが採れた。ゴウザンゴマシジミが少ないながら山麓部から高山帯にかけて広く分布し、高山帯ではアポロウスバシロチョウやベニヒカゲ類、ヒメウスルリシジミ、*Mellicta varia*といった高山蝶が生

息しており、メスグローベニシジミ、フチグローベニシジミの数が極めて多いほか、ムラサキオオベニシジミも見られる。また6月にはクロホシウスバシロチョウが亜高山帯を中心に多産する。

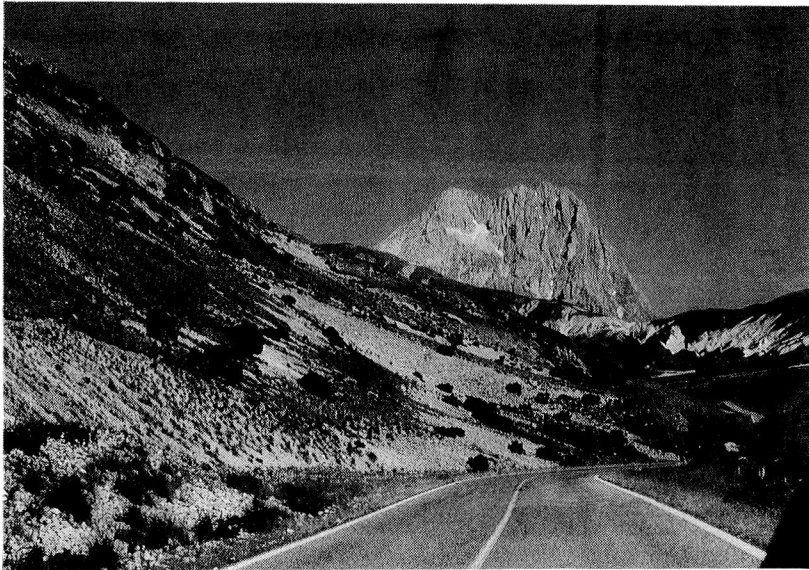


写真1 イタリア半島部最高峰 Corno Grande alt.2912m
カンボ・インプラトーレからのぞむ 5/VII/1997



写真2 ヘリグローベニシジミ♂ 5/VII/1997
campo imperatore Gran Sasso d'Italia

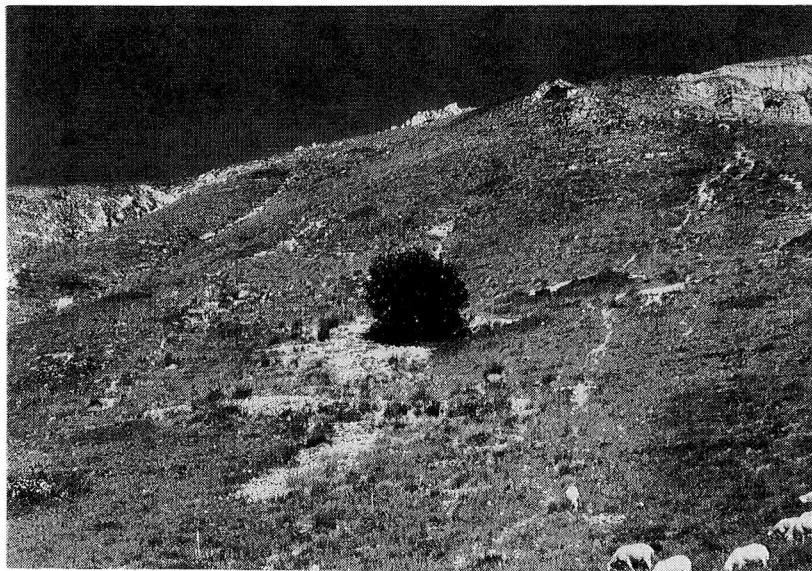


写真3 羊が遊び、アポロが乱舞する Monte Terminillo
標高1600~1800mの高原 13/VII/1997



アポロ♀ 26/VII/1997

Manti Sibillini M. Rotondo (alt. 1600m付近)

(なかむら ひでお Via XX Settembre 109, I-05100 Terni, Italy)

このシリーズはこれで終了です。

寄せ蛾記90号 目次

石塚正彦：武甲山の思い出・・・・・・・・・・・・・・・・	2647
石塚正彦：秩父市街地付近の蝶相・・・・・・・・・・	2655
石塚正彦：カラスシジミの新産地・・・・・・・・・・	2665
石塚正彦：カラスシジミの蛹化場所・・・・・・・・・・	2667
石塚正彦：小鹿野町における蝶の採集記録・・・・・・・・	2669
石塚正彦：長瀬でウスイロコノマ・・・・・・・・・・	2670
新井志保： <i>Astenus setifer</i> を東松山市で採集 ・・・・・・・・	2671
山崎 章：秩父郡両神村にて採集したホソヒメクロオサムシ	2672
牧林 功：大宮市でモンキアゲハを目撃・・・・・・・・	2672
渡邊光行：96年～98年の蝶類の記録・・・・・・・・・・	2672
牧林 功：オオシロカゲロウの大発生について・・・・・・・・	2673
松田幸弘：比企地方のトンボ類（Ⅱ）・・・・・・・・	2674
巢瀬 司：浦和市でアオタテハモドキを目撃・・・・・・・・	2678
中村英夫：97年中部イタリアで出会った蝶たち（その4）	
ジャノメチョウ科・セセリチョウ科・・・・・・・・	2679

「これから出る予約販売の本」について

日本昆虫学会自然保護委員会 編

『昆虫類の多様性保護のための重要地域 第1集』購入方法・2691

会報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2692

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2692

（埼玉昆虫談話会 1999年1月31日，46pp）